

石岡市子ども読書活動推進計画

～すべての子どもに読書の楽しみを～

令和5年3月

石岡市教育委員会

目次

第1章 計画策定にあたって

- 1 読書推進の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 国・県の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 子どもの読書の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 計画策定の基本的な考え方

- 1 計画策定の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 計画の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 5 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第3章 子ども読書活動推進のための取り組み

- 1 図書館における子どもの読書活動の推進・・・・・・・・ 5
- 2 家庭・地域全体における子どもの読書活動の推進・・・・ 8
- 3 幼児教育施設・学校における子どもの読書活動の推進・・・・ 11
- 4 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・・・・・・・・ 14

第4章 計画の推進

- 1 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 2 計画の見直しと改定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 3 財政上の措置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

資料編

- アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 関係例規・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

第1章 計画策定にあたって

1 読書推進の意義

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであります。（子どもの読書活動の推進に関する法律第2条より）

しかし、昨今、タブレット端末やスマートフォン等が普及し、インターネットやSNSなど、本以外から簡単に情報を得ることができるなど、知識の取得方法が多様化しているほか、ICT等の先端技術の発達により、学校において一人一台端末を活用した授業や学校と自宅等を結んだオンライン授業が行われるなど、子どもたちの学びや生活のスタイルが大きく変化しています。

こうした時代の変化に伴い、多様なメディアの利便性と引き換えに、インターネットやSNSなどに長時間費やすことで、子どもが本と触れ合う機会が減っていることが大きな問題となっています。また、このことが子どもの「読書離れ」や「活字離れ」を加速させており、その結果、言語能力の低下、語彙量の減少、日本語の乱れなどに影響があるとされています。

このことを踏まえ、すべての子どもが、それぞれの成長段階のあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことが出来るように、取り組みを推進していく必要があります。

2 国・県の取組み

国は、子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務等を明らかにし、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図ることにより、子どもの健やかな成長に資することを目的として、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。

これを受け、茨城県では、平成16年3月に「第一次いばらき子ども読書活動推進計画」を定め、平成22年1月に「第二次いばらき子ども読書活動推進計画」、平成27年3月に「第三次いばらき子ども読書活動推進計画」、令和4年4月に「第四次いばらき子ども読書活動推進計画」を策定しました。

3 子どもの読書の現状

全国学校図書館協議会と毎日新聞社が実施した「第66回学校読書調査」によると、令和3年5月の1ヶ月間の平均読書冊数は、小学生が12.7冊、中学生は5.3冊、高校生は1.6冊でした。また、不読書者（5月の1ヶ月間に読んだ本が0冊の児童生徒）の割合は、小学生は5.5%、中学生は10.1%、高校生は49.8%となっています。

石岡市においても、令和4年7月に児童・生徒、保護者、学校・幼児教育施設を対象に、アンケート調査を実施しました。

児童・生徒に対するアンケートでは、「本を読むことが好きですか？」（P16参照）の質問に「好き」と答えた小学2年生は58.9%、5年生38.5%、中学2年生は36.6%と学年が上がるにつれ、「好き」と回答する子どもが減少する傾向にあります。また「1ヶ月に何冊くらい読みますか？」（P19参照）の質問に「6冊以上」と答えた割合が、小学2年生と5年生ではそれぞれ約60%であるのに対し、中学2年生では約30%に半減することや、「本を読まない」と答えた割合が、小学2年生で5.6%、5年生で5.4%であるのに対し、中学2年生では11%にのぼっていることから、年齢が大きくなるにつれて、読む本の冊数が減っていく傾向にあることが見えてきました。これは、特に中学生は部活動や塾などで生活環境が変わることが、読書の時間や冊数が減る要因の一つとなっているのではないかと考えられます。

保護者に対するアンケートでは、「図書館をどのくらい利用されますか？」（P35参照）の質問に、どの世代の保護者も、70%以上が「ほとんど利用しない」と回答しているにもかかわらず、「本を読むことが大切だと思いますか？」（P38参照）の質問には、90%以上が「大切だと思う」と回答していることから、多くの保護者が読書を大切であると考えていながらも、日常の中で時間に追われ、実際に図書館に足を運ぶところまでには至っていないのではないかと考えられます。

学校および幼児教育施設に対するアンケートでは、ほとんどの小中学校や幼児教育施設で、朝の読書、読み聞かせなどの取り組み、読書と連携した学習などを実施している一方、図書館の団体貸出などがあまり利用されていないことや、図書館に対し、読み聞かせやブックトークに関するさらなる支援を要望していることなどから、図書館との連携に課題がある現状が見えてきています。

第2章 計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の目的

石岡市の未来を担う子どもたちが、その成長の過程で、読書を通じ、読書の楽しさや大切さを知り、自ら進んで読書をするような人になってもらいたいとの願いから、図書館を中心に家庭・地域・学校などが協力・連携して、本を読む環境づくりと子どもの読書の習慣づけを推進することを目的とします。

2 計画の位置付け

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項において、市町村に対して、子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならないと定められています。

これに基づき、国の「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」及び県の「第四次いばらき子ども読書活動推進計画」を基本として、石岡市子ども読書活動推進計画を策定します。

3 計画の対象

子どもが自主的に読書に親しみ、生涯にわたって読書を楽しむ習慣を身に付けるためには、乳幼児期から発達や読書経験をふまえた読書活動が行われる必要があることから、0歳からおおむね18歳までの子どもを対象としています。

4 計画の期間

令和5年度からおおむね5年間とします。

5 基本方針

社会全体で子どもの自主的な読書活動の推進を図るとともに、そのための環境づくりをするために、以下の方針を定めます。

(1) 図書館における子どもの読書活動の推進

子どもが本に親しみ読書への意欲を高めるためには、すばらしい本との出会い、本の楽しさを発見する機会、成長段階に応じた読書活動の場などを提供する必要があることから、図書館において子どもの読書環境の充実・整備を図っていきます。

(2) 家庭・地域全体における子どもの読書活動の推進

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、保護者や周囲の大人たちを巻き込み、地域全体で取り組んでいくことが必要です。子どもの読書活動を推進できる体制を作るために、子どもに関わる機関、団体等がこれまで以上に連携・協力を深め、地域が一体となって子どもの読書推進に取り組むことで、切れ目のない充実した推進体制を構築します。

(3) 幼児教育施設・学校における子どもの読書活動の推進

子どもの読書活動を推進するためには、教育の場の協力も必要不可欠です。読書に親しみを覚え、読書習慣を身につけるためには、幼児あるいは児童・生徒が多くの時間を過ごす幼児教育施設や学校での読書環境の充実が求められるため、子どもの読書活動の意義や重要性について理解と関心を深める活動が必要です。

第3章 子ども読書活動推進のための取り組み

1 図書館における子どもの読書活動の推進

子どもたちにとって、図書館は、多様な本の中から読みたい本を自由に選択し、出会い、読書の楽しみを通じて豊かな人間性を育む場所です。また、図書館は自主的に調べ、自ら学び考える場所でもあります。その役割を果たせるように、魅力ある蔵書の充実を図り、読書活動を推進します。

また、子どもやその保護者を対象とした読み聞かせ会、講座、展示会等を実施するほか、地域における子どもの読書活動を推進する上で重要な役割を果たしている団体の支援や、多様なボランティア活動等の機会・場所の提供などを行います。

図書館資料の計画的な収集

- ・絵本や物語、調べ学習に役立つ本など、魅力ある蔵書の充実を図り、乳幼児・児童・生徒の発達段階に応じた本を収集し、多くの資料提供に努め、魅力ある図書館活動を推進します。
- ・好奇心・探求心の旺盛な子どものリクエストにも答えながら、魅力ある資料の収集に努めます。
- ・石岡市には、様々な文化財などが残されていることから、関係資料の収集に努めます。

年齢に応じた本の見せ方の工夫

- ・児童コーナーは、子どもの目に止まるような本の配置や飾りつけなどを工夫し、子どもが本に興味や関心を持ち、自然に読書習慣に結び付くよう、子どもにわかりやすい本の配置をします。また、本の難易度の表示をしたり、おすすめの本リストを作成し、選びやすい環境づくりに努めます。
- ・YA（ヤングアダルト）コーナーは、中学生・高校生を中心とした青少年を対象としていますが、この年代は感受性の豊かな時期であり、大人への過渡期でもあります。興味や関心、要求等が多様化する青少年のための資料を積極的に収集・提供したYAコーナーを充実させます。

子どもの関心を引き本に興味を持ってもらうための図書館づくり

- ・講座やおはなし会を開催し、図書館に足を運んでもらえるきっかけになるよう努めます。

公民館図書室の充実

- ・中央図書館・やさしさと図書館が遠い地区の方に向け、各公民館の図書室を利用してもらえるようにし、だれもが興味を持てるような図書の収集や蔵書の入れ換え等を行い、親しみのある図書室を作り、気軽に利用者が足を運べるように努めます。

事業の充実

・おはなし会【継続】

図書館職員によるおはなし会を定期的で開催し、乳児期から、本やおはなしの世界に親しみ、本の楽しさを知ってもらう活動を行っています。今後は幼児だけでなく、小学生も対象とした「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせや本の紹介などを定期的に行います。

・ビブリオバトル【継続】

友だちや子ども同士で本を紹介しあうことで、紹介された本を読んでもみたいという気持ちを生じさせる活動を行います。

・上映会【継続】

原作の本がある映画の上映を行うことで、映画が面白いと感じて、原作の本を手に取り、読書習慣につながるよう努めます。また、定期的に図書館に来る習慣がない子どもたちが、図書館に足を運び、図書館を知ってもらうきっかけを作ります。

・学習につながる体験講座【新規】

知りたいことを自主的に知る場として図書館を利用してもらうために、学習につながる体験講座を行います。

- ・読書ノート【新規】

タブレット等を活用し、読んだ本の内容や感想を記録する読書ノートの整備を行います。

- ・読書通帳の作成【新規】

希望者に読書通帳を配布し、これまでにどのような本をどれだけ読んだのか記録して、達成感を味わい、本を読む習慣をつけられるように促します。

- ・リサイクルフェア【継続】

除籍された本を随時無償配布しています。また、配布する対象を絞り選書を行い、高齢者施設向け、幼児教育施設向けの配布イベントを開催しています。

- ・人形劇【継続】

図書を題材にした人形劇を開催して、子どもたちに図書に興味を抱かせるよう努めます。また、定期的に図書館に来る習慣がない子どもたちが、図書館に足を運び、図書館を知ってもらおうきっかけを作ります。

- ・としょかんこどもフェスティバル【継続】

子供向けの複数のイベントを同時開催します。図書館において、同時にいくつかのイベントをすることにより、親子でより好みのイベントを選択していただき、楽しみながら読書について知る機会を作ります。



2 家庭・地域全体における子どもの読書活動の推進

令和4年7月に石岡市で実施したアンケート調査によると、「ご家庭では、子どもにどのくらい本を読んであげていましたか？」の質問に、「ほぼ毎日」約19%、「週に3回くらい」約25%、「週に1回」約30%、「月に1～2回くらい」約16%と回答しています。

子どもが読書習慣を身に付ける上で家庭の果たす役割は大きく、日常生活の中で自然に読書に親しめる環境づくりが大切です。家庭は子どもが初めて本に触れ、自然に読書を行う上でも最も関わりが強く、興味や関心を育む重要な役割を担っています。そのためにも、家族が読書の重要性を認識し、ともに読書をし、読み聞かせをして、読書に接する機会や環境づくりに努めることが必要です。

家族の読書活動の推進

家族が読書の重要性を理解するためには、それを知る機会の創設が必要です。図書館はイベントや講座によって、啓発を推進し、家庭内の読書環境の向上に努めます。

家族の読み聞かせの推進

読み聞かせについては、乳幼児のうちから始めることが大切です。乳幼児は周りの大人の言語を聞いたり、乳幼児なりの言語を大人に聞いてもらったりしながら、言葉を発するようになります。特に、本に興味が出始める2・3歳の時期に親や大人が習慣として読み聞かせを行うことにより、乳幼児は本が好きになると言われています。おはなしや絵本の読み聞かせによって言葉を覚え、豊かな感性と個性を育むため、親子で絵本の読み聞かせを行うなど、読書を楽しむ取り組みを推進します。

読書ボランティアによる読書活動の推進

家庭以外に、地域全体の活動も子どもの読書活動推進に欠かせません。読書活動に精通した読書ボランティアによる読み聞かせは、子供たちが読書に関心を持つきっかけになります。より積極的なボランティアの活動も望まれます。

地域全体による読書活動の推進

石岡市社会福祉協議会など、各種団体と連携して取り組みを行い、地域としての読書活動を推進します。

事業の充実

・ブックスタート事業【継続】

0歳児（4～5ヶ月児）健康診断に訪れた親子を対象に、絵本2冊と布バッグ等を無償で配布しています。同時に読み聞かせボランティアが読み聞かせを行い、絵本を開く楽しい体験をし、本に関わるきっかけになるような活動をしています。また、絵本を配布する際に図書館の案内チラシを渡し、親子での図書館利用を促しています。

・本となかよし【継続】

幼児教育施設の年長児に図書館へ来館してもらい、図書館職員と読み聞かせボランティアが読み聞かせを行っています。また、その際に、子どもたちが自分で興味のある本を探して選び、本の借り方の体験をしてもらい、そのまま本を貸し出しして、読書をする機会を作っています。

・子どもの読書応援事業【継続】

石岡市社会福祉協議会では、子どもの読書活動と保護者の読み聞かせを奨励し、子どもの情操教育の推進と健全育成を図るため、子ども読書応援事業を行っています。ポイントカードを発行し、図書館において図書の貸出ごとに押印して、一定数たまるとポイント交換しています。

・ブックスタートボランティアの育成【継続】

ブックスタートボランティアの育成のための講座を開催します。

・読み聞かせボランティアの育成【新規】

読み聞かせやおはなし会を実施するためには、読み聞かせのできるボランティアの協力が必要です。そこで、読み聞かせに興味のある方などを対象に、図書館で読み聞かせ講座を実施し、読み聞かせを実践できる人材を育成します。

3 幼児教育施設・学校における子どもの読書活動の推進

子どもが初めて集団生活を体験する幼児教育施設では、子どもの世界が大きく広がる時期に心の栄養となる絵本に出会うことが重要です。子どもたちは、文字を覚え、徐々に主体的に読書の習慣を身につけていきます。成長の過程で子どもは、読書の喜びを知り、自ら本を読みたいと思うようになります。

また、集団生活の中で絵本や物語の世界を楽しむことにより、家庭とは違う雰囲気や友達との一体感を味わうことができ、読書体験が広がります。

高学年になるにつれ、生活体験が豊かになり、幅広い分野の中から自分の目的に合った本を適切に選択できるようになりますが、一方で、勉強や部活動、趣味等に興味が向かうようになり、読書にかかる時間が少なくなる傾向があることから、読書離れに対して子どもたちが主体的に本を手に取りたくるような働きかけが必要です。

幼児教育施設から始まり、子どもは学校で過ごす時間が増えていくことから、幼児教育施設や学校における読書活動の推進は欠かせません。

幼児教育施設における読書活動の推進

教育活動、保育活動、子育て支援活動の一環として、絵本や紙芝居などの読み聞かせや図鑑等の図書の活用により、子どもが読書に親しむ機会を提供することが大切です。そのためには、保育者が読書の意義を理解して、幼児が絵本や物語に親しむ活動の充実を図るとともに、本に触れることができる環境を整備したり、読み聞かせ等の大切さについて保護者に啓発したりする必要があります。

学校図書館における読書環境の整備・充実

学校図書館は、読書活動や読書指導の場として、自発的・主体的な学習活動を支援するという役割を果たしていることから、文部科学省が設定した「学校図書館図書標準」を目途に、毎年度計画的に子どもたちの知的好奇心を満たす魅力的な図書の増冊、整備を行います。また、各教科等での調べ学習に必要な図書資料の充実を図ります。

各学校における魅力ある読書活動の推進

司書教諭及び図書館司書を中心に、各学校の特色や地域、児童・生徒の実態に即した読書活動を推進し、その充実に努めます。

読書時間の確保

各学校の実態に応じて、読書の楽しみを深めるとともに、児童・生徒が本を読むことを習慣化するように努めます。一斉に読書に取り組む活動（ブックトーク、親子読書等）を実施し、読書時間の充実に努めます。

事業の充実

・団体貸出の促進【継続】

幼児教育施設、学校などに対して、図書館資料の貸出しを積極的に行い、団体貸出の趣旨の理解を深め、団体貸出の増加に繋がるよう努めます。また、児童クラブなど、子どもの読書に関わる活動をしている団体に対しても、図書館資料の貸出しを行い、本の選び方や子どもの読書活動に役立つ情報提供などの支援を行います。

・巡回おはなし会【継続】

市内幼児教育施設へ図書館職員と読み聞かせボランティアが出張して、読み聞かせを行い、普段図書館を利用しない幼児に対して、読み聞かせの楽しさを体験してもらうとともに、読書活動の普及や図書館利用の促進を図っています。

・図書館施設見学【継続】

学校の授業の一環として、図書館の施設見学を実施します。図書館がどのような場所であるかを知ってもらうとともに、図書館を身近に感じて来館しやすくなるよう促します。

・体験学習、職業体験（インターンシップ）【継続】

子どもたちに読書への興味、関心を高めてもらうために、体験学習や職業体験（インターンシップ）を行います。

- ・小・中学校教諭と図書館職員の連携【新規】

定期的に情報交換を行うとともに、子どもの現状について分析を行い、読書環境の整備と読書推進活動に活かします。

- ・授業における読書活動の充実【新規】

国語科における「読むこと」の指導と関連付けて、日常的な読書活動を充実させます。授業において教科書教材に関連した作品の並行読書を取り入れたり、教科書教材と読み比べを行ったりすることで、読書量の確保や読書意欲の喚起に努めます。

- ・GIGAスクール構想との連携【新規】

市内の児童・生徒一人ひとりにタブレット端末が配布され、学習などへの活用が始まっていることから、この環境を図書館も活用するため、児童・生徒がタブレットから図書館の蔵書検索を行い、借りたい本があれば予約等ができる仕組みを構築し、自ら情報を探して得ることができるような環境を整えます。



4 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子どもの読書活動の理解を高めるため、あらゆる媒体を利用し普及活動を行います。家庭内での読書時間の増加を図るため、低年齢時から本に親しむ習慣を身に付けられるよう、子育て世代に向けた読書啓発に努めます。

啓発・広報の推進

子どもの読書活動に関する情報を幅広く収集するとともに、図書館ホームページ、図書館通信、市広報紙などにより情報発信に努めます。また、インターネットが普及している中、蔵書検索やWEB予約、図書館資料やイベントの紹介等、ホームページの充実を図り、子どもの読書に関する情報を積極的に提供していきます。

読書の実態調査等の推進

子どもの読書活動の推進・継続に向けて、必要に応じて実態調査を行っていきます。

「子ども読書の日」「子ども読書週間」のPR活動

4月23日の「子ども読書の日」、4月23日から5月12日の「子ども読書週間」の機会に、図書館のホームページ、ポスター、チラシ、図書館通信、市広報紙等で読書の大切さ、面白さを広めていきます。

事業の充実

・図書館通信の発行【新規】

子どもと本との出会いの機会を創出するため、子どもと保護者向け図書館通信を発行し、年代にあった本の紹介・貸出ランキング等を配布し、読書の啓発に努めます。

・インターネット環境を通じた児童・生徒向け情報の提供【新規】

主催事業の案内やおすすめの本リストを掲載するなど、図書館ホームページの児童・生徒向けの情報を充実させ、子どもたちが読みたい本を見つける手助けや本を読む楽しさを伝えるための取り組みを行います。

第4章 計画の推進

1 推進体制

家庭・地域・幼児教育施設・学校が連携して一体となって計画を推進します。石岡市立中央図書館・こども図書館本の森・郷の本棚やさど図書館・各公民館図書室で推進体制の調整を図り、地域の読書推進活動の核としての役割を果たします。

2 計画の見直しと改定

社会情勢の変化などにより計画の内容が実態と合わなくなったとき、また、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」などの上位計画が改定され、新たな理念に基づく計画が求められるようになった場合は、計画の期間にかかわらず、計画の見直し、改定を行います。

3 財政上の措置

この推進計画において示した各種施策を実施するため、必要な財政上の措置を講ずるように努めます。

資料編：アンケート結果

1. 調査目的

市内の子どもの読書環境や読書意識等の現状を把握するとともに、子どもの読書活動に影響を与える要因との関連を明らかにすることにより、石岡市子ども読書活動推進計画の策定に資することを目的として調査しました。

2. 調査対象

- ・市内各小学校 19校 2年生及び5年生
- ・市内各中学校 5校 2年生
- ・対象児童・生徒の保護者
- ・市内幼児教育施設 20園 年中児保護者
- ・市内小中学校 24校
- ・市内幼児教育施設 20園

3. 調査期間

令和4年7月1日(金)から令和4年7月29日(金)まで

4. アンケート回収状況

児童・生徒

調査対象者	対象者人数	有効回収数	有効回収率
小学2年生	476人	450人	94.5%
小学5年生	540人	465人	86.1%
中学2年生	566人	453人	80.0%
合計	1,582人	1,368人	86.5%

保護者

調査対象	対象者人数	有効回収数	有効回収率
年中児保護者	485人	399人	82.3%
小学2年生保護者	476人	398人	83.6%
小学5年生保護者	540人	379人	70.2%
中学2年生保護者	566人	278人	49.1%
合計	2,067人	1,454人	70.3%

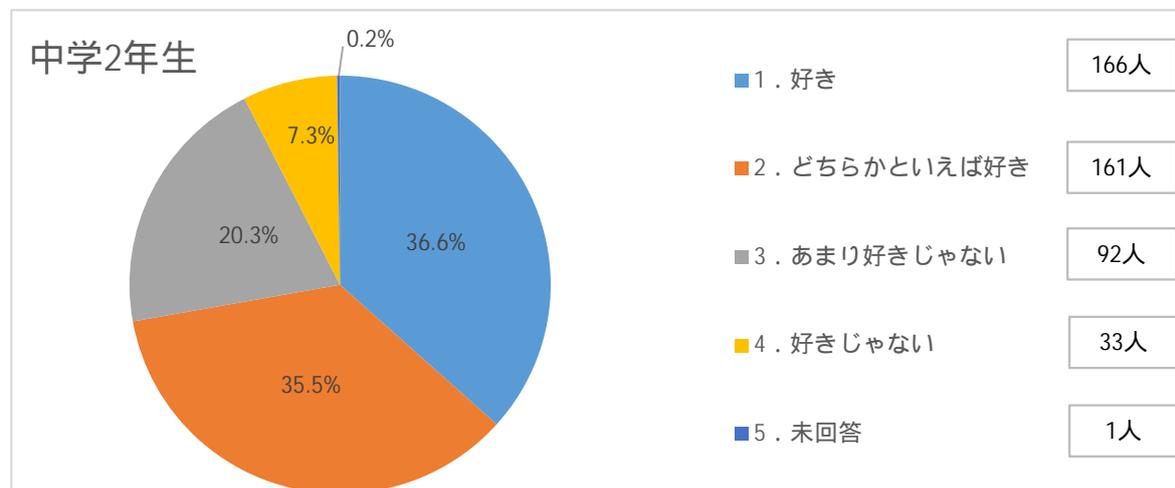
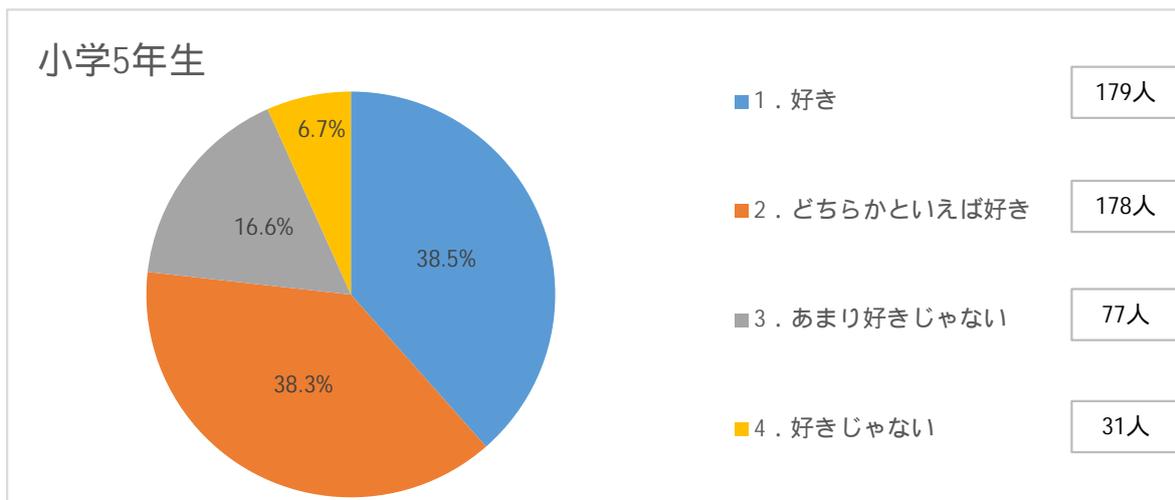
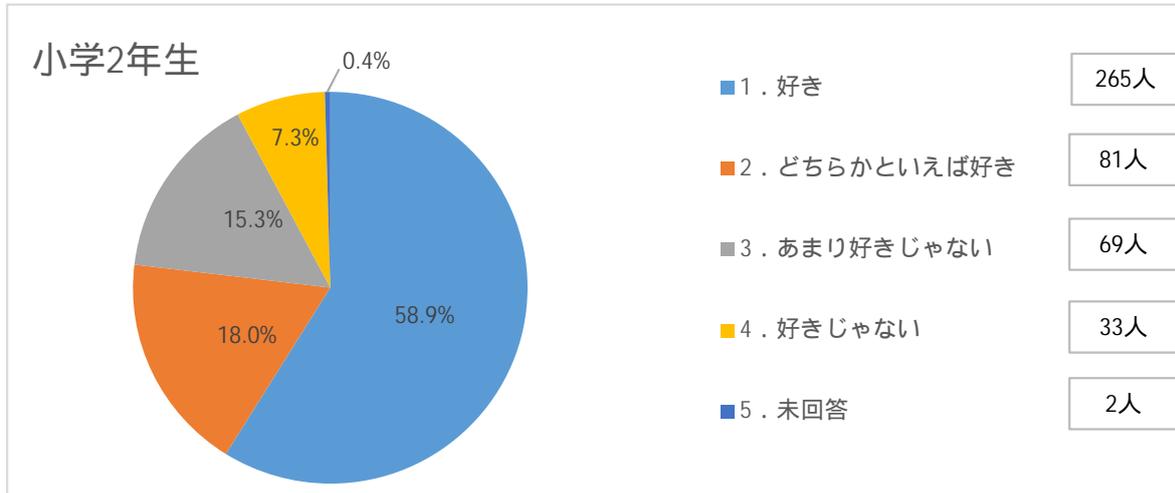
小中学校、幼児教育施設

調査対象	対象施設	有効回収数	有効回収率
小中学校	24校	24校	100.0%
幼児教育施設	20園	18園	90.0%

1. 児童・生徒

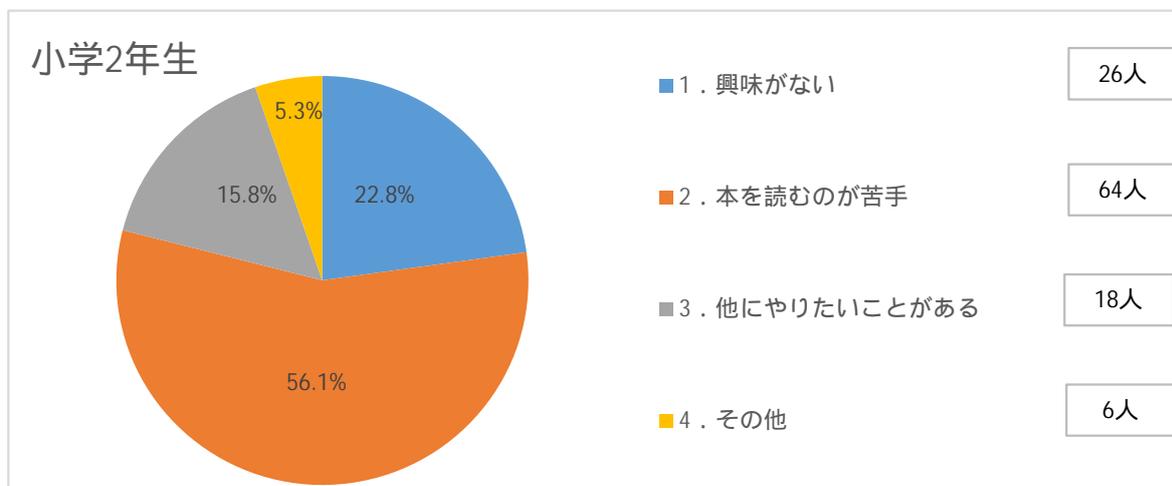
対象者 市内小学2年生・5年生
市内中学2年生

Q1 あなたは本を読むことが好きですか？

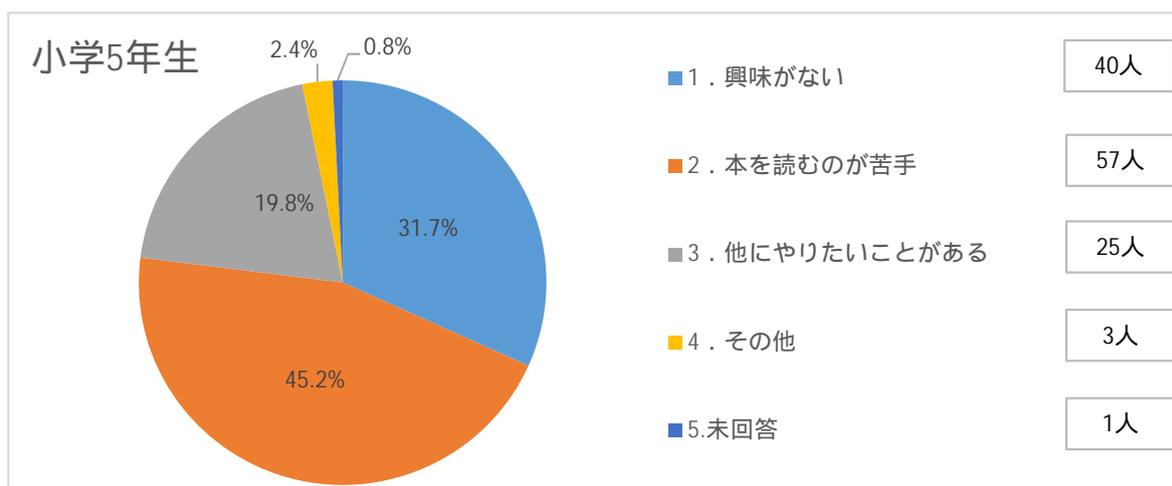


(Q1で「3.あまり好きじゃない」「4.好きじゃない」と答えた人へ)
 Q2 好きではない理由はなぜですか? 【複数回答】

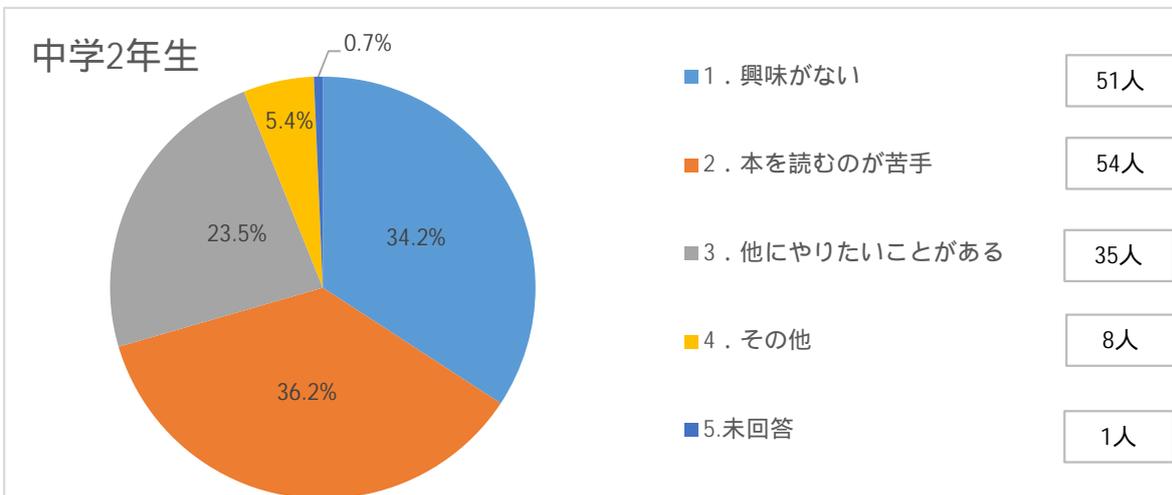
「あまり好きじゃない」「好きじゃない」の回答数102人のうち



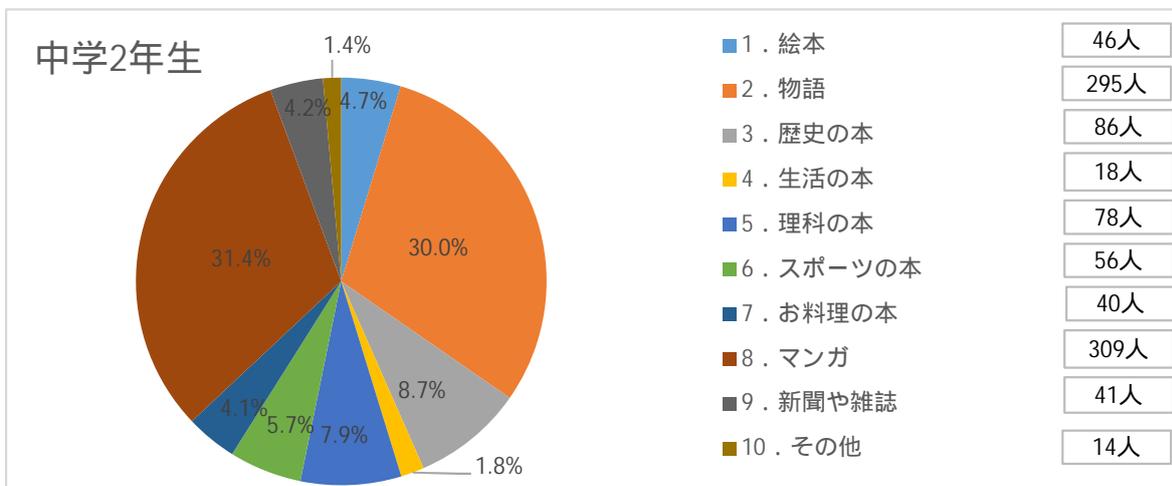
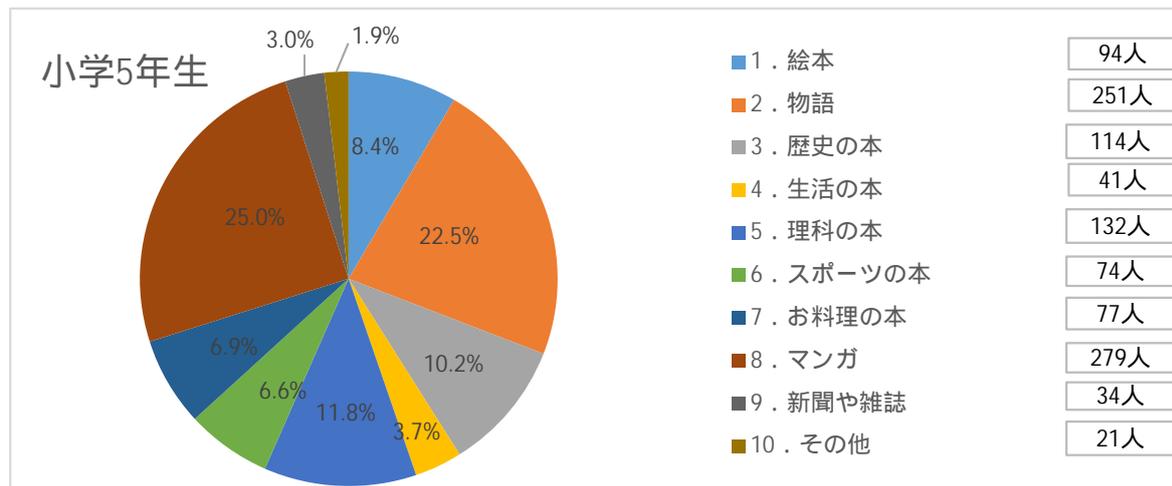
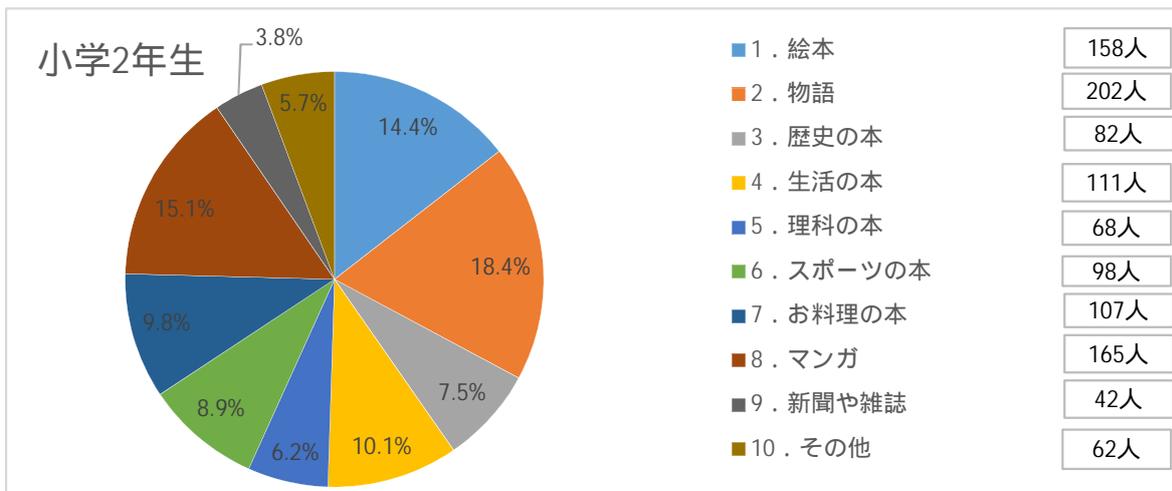
「あまり好きじゃない」「好きじゃない」の回答数108人のうち



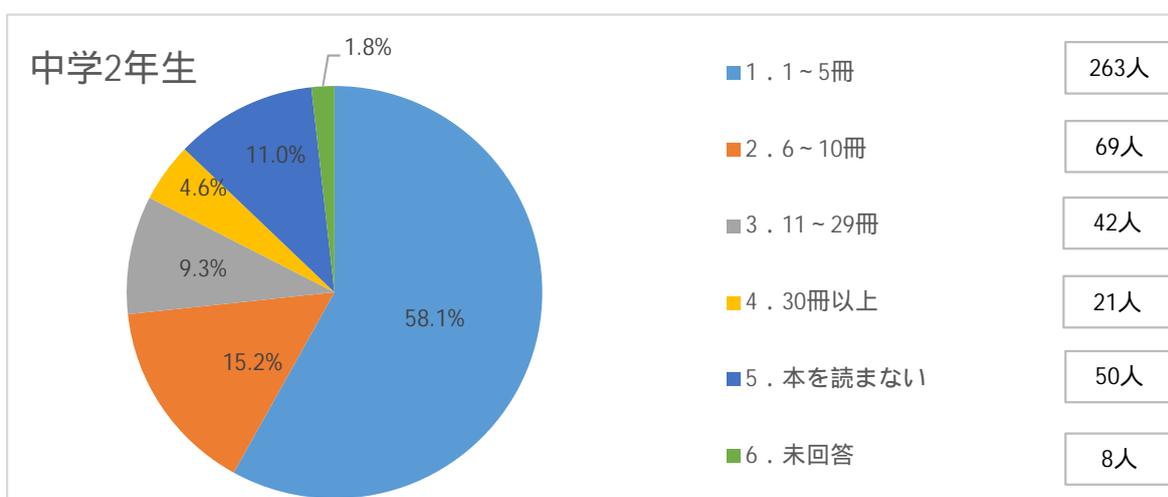
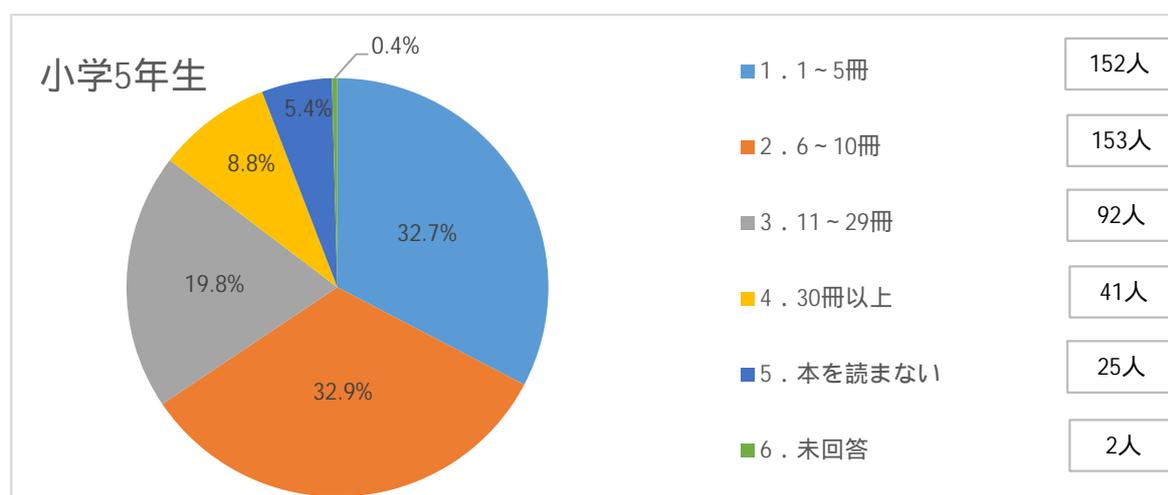
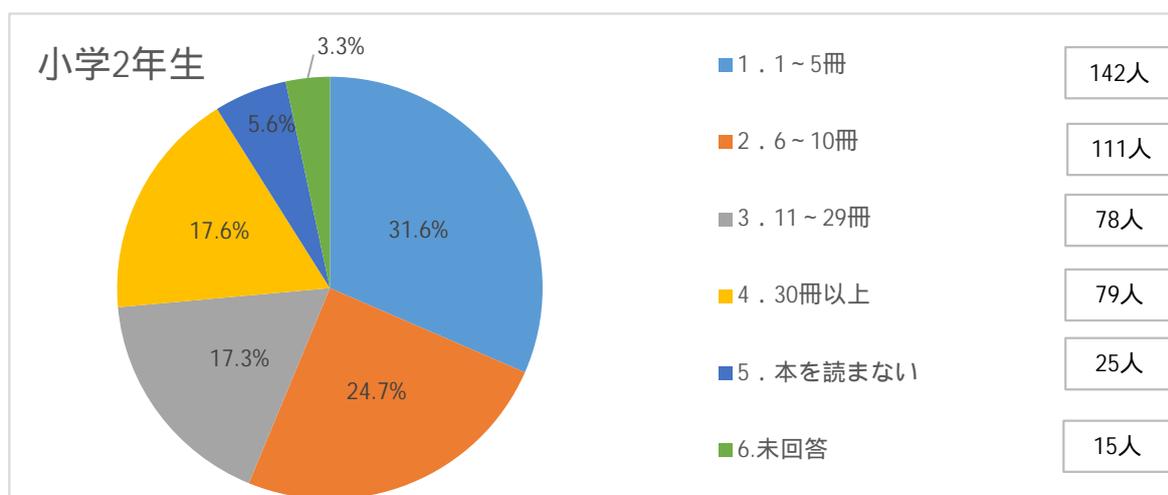
「あまり好きじゃない」「好きじゃない」の回答数125人のうち



Q3 あなたは、どんな本が好きですか？ 【複数回答】

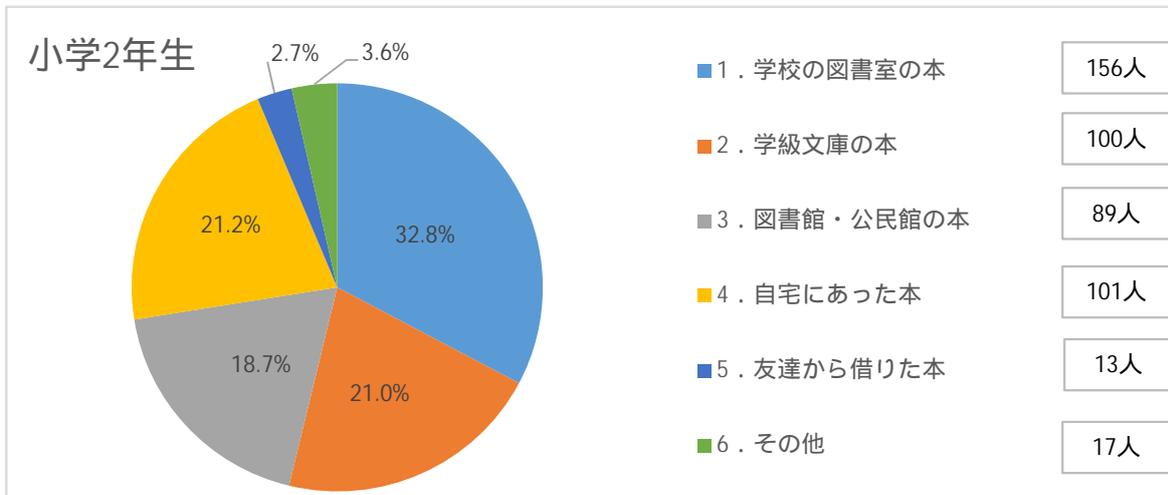


Q4 1ヶ月に何冊くらい読みますか？（電子書籍を含む）

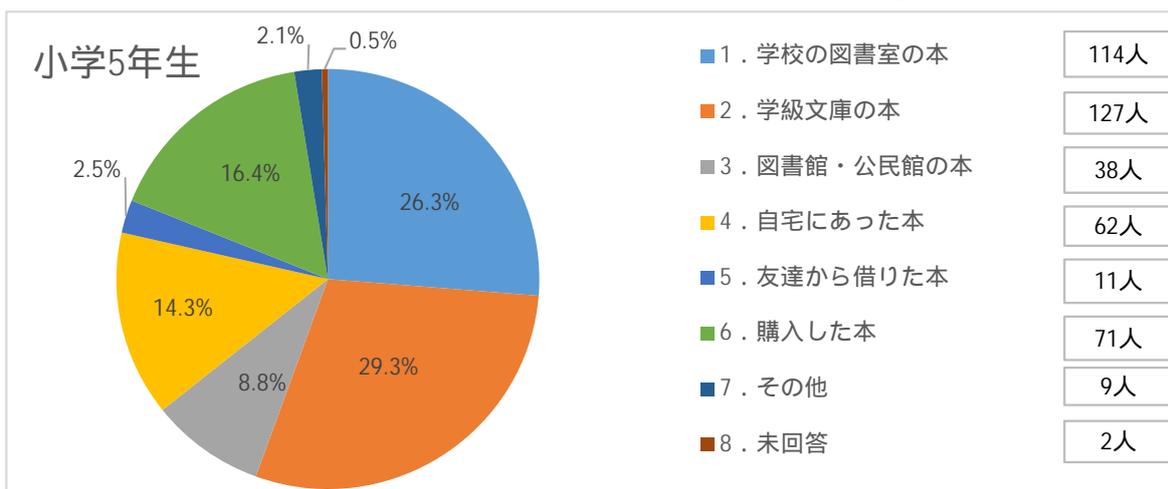


(Q4で「1~5冊」「6~10冊」「11~29冊」「30冊以上」と答えた人へ)
 Q5 あなたは、どこの本を読むことが多いですか？【複数回答】

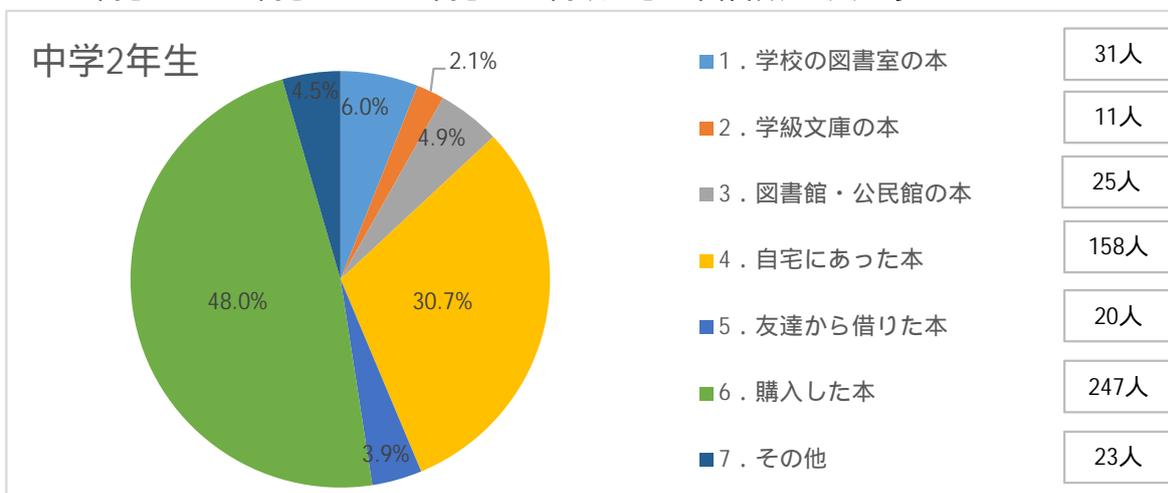
「1~5冊」「6~10冊」「11~29冊」「30冊以上」の回答数410人のうち



「1~5冊」「6~10冊」「11~29冊」「30冊以上」の回答数438人のうち

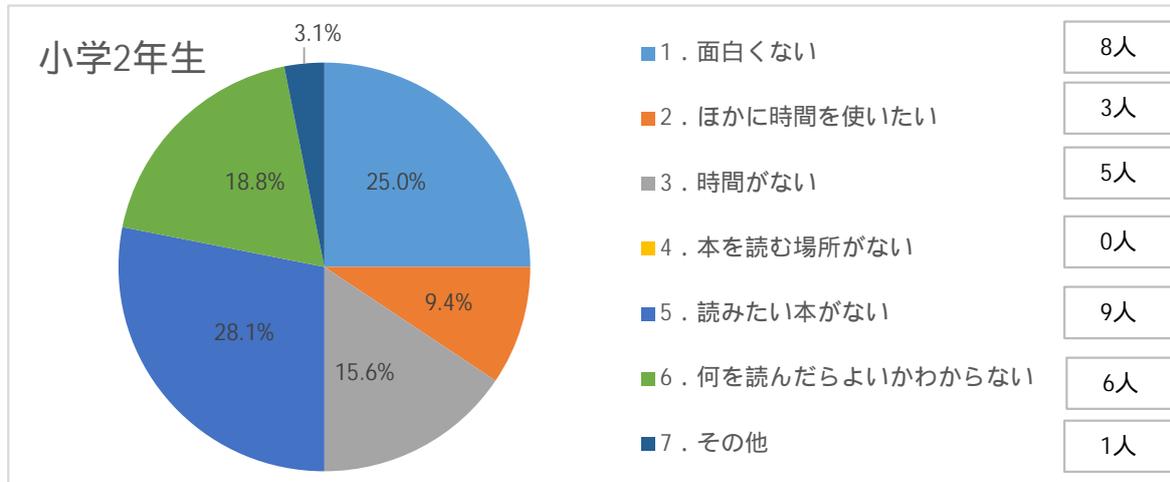


「1~5冊」「6~10冊」「11~29冊」「30冊以上」の回答数395人のうち

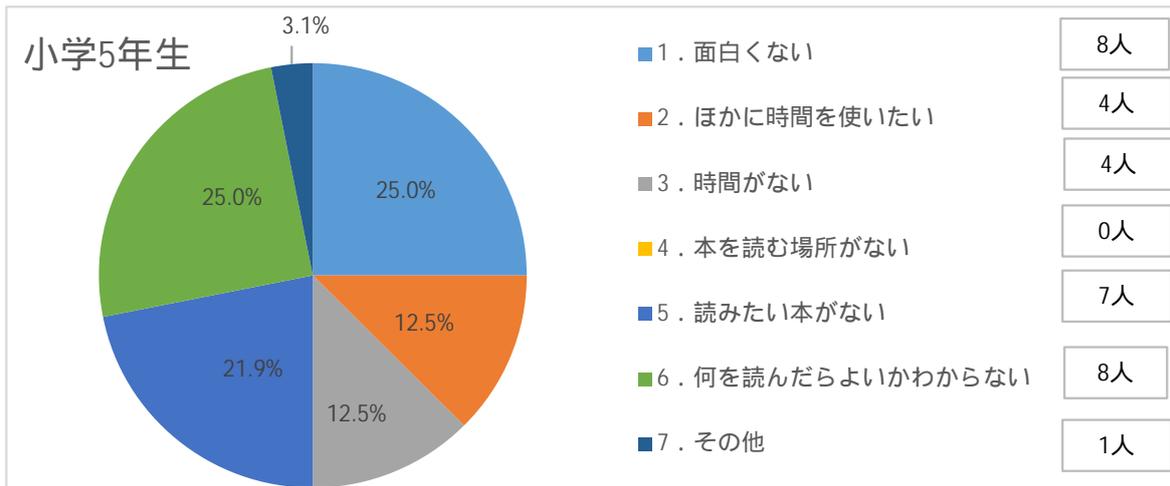


(Q4で「5.本を読まない」と答えた人へ)
Q6 本を読まないのはなぜですか？

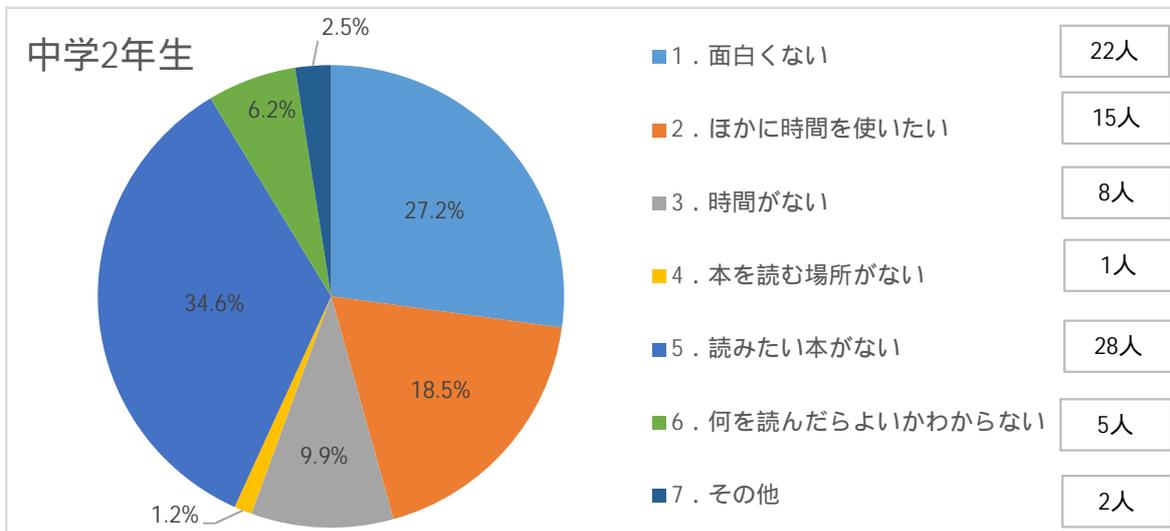
「本を読まない」の回答数25人のうち



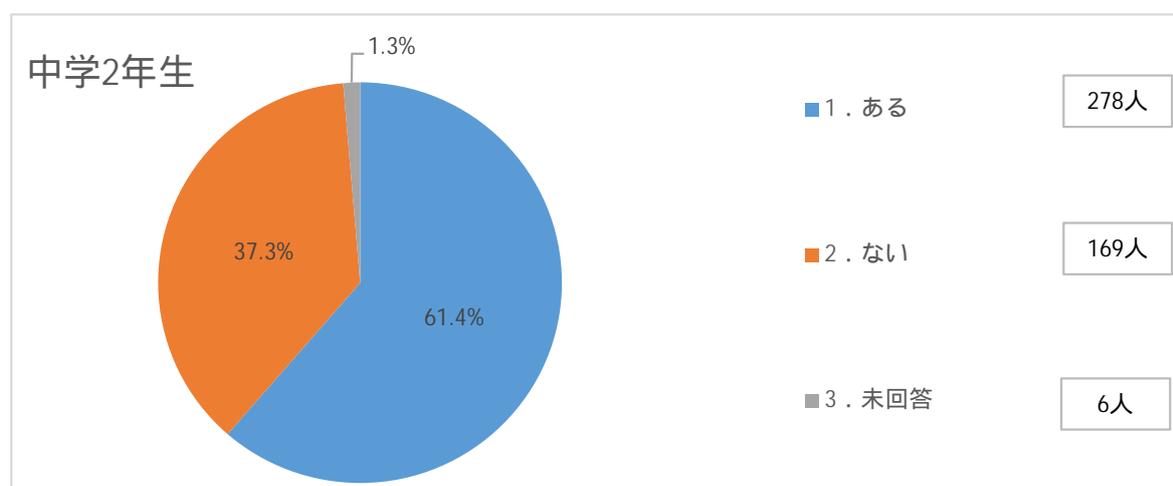
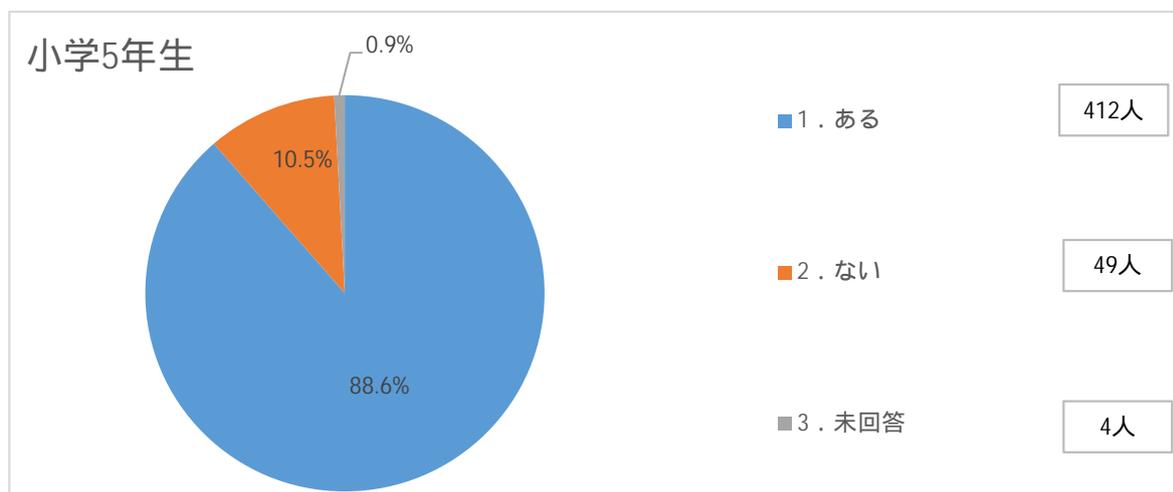
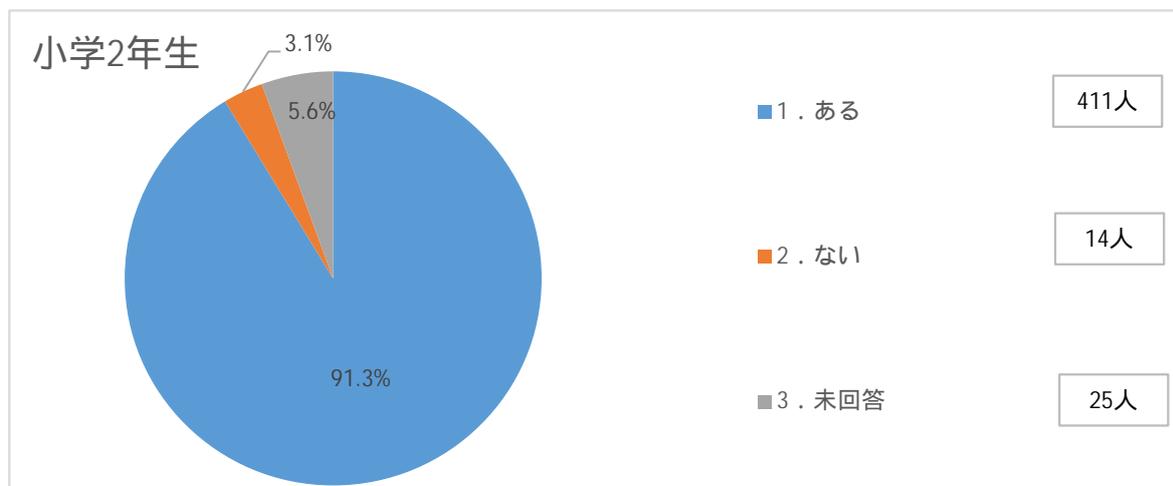
「本を読まない」の回答数25人のうち



「本を読まない」の回答数50人のうち



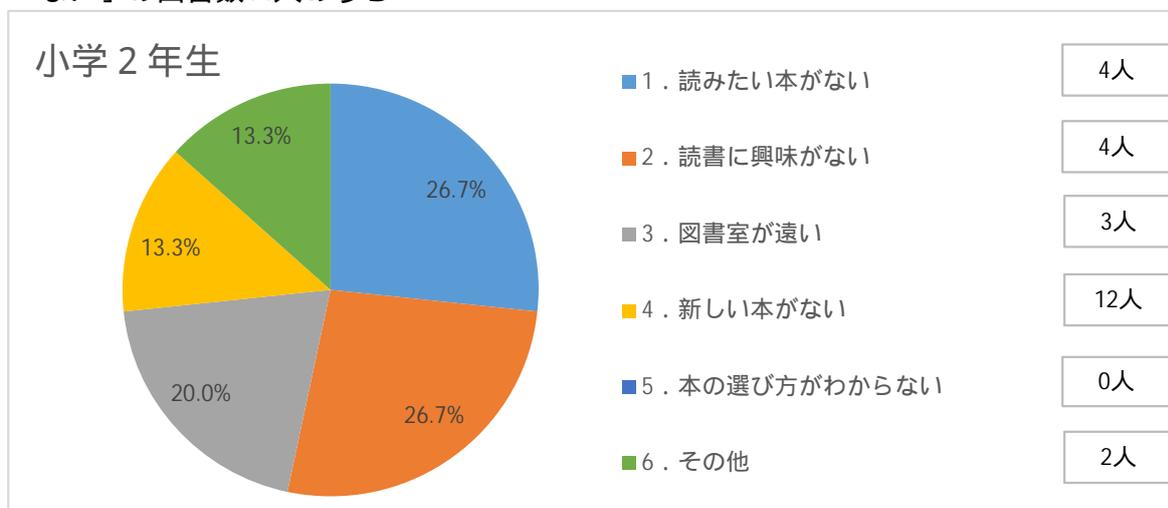
Q7 あなたはこの1年間に学校の図書室に行ったことがありますか？



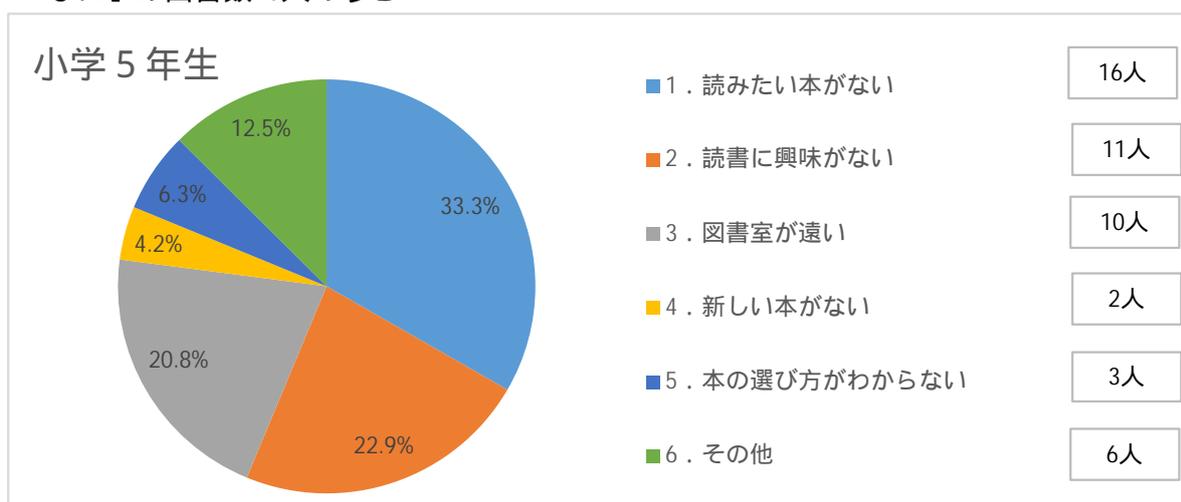
(Q7で「2.ない」と答えた人へ)

Q8 学校の図書室に行かない理由は何ですか？【複数回答】

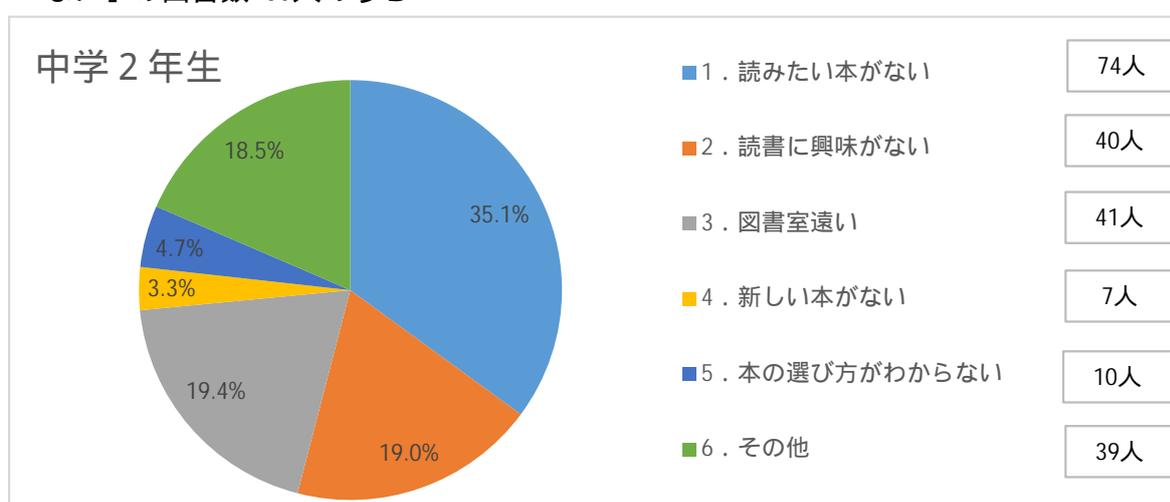
「ない」の回答数14人のうち



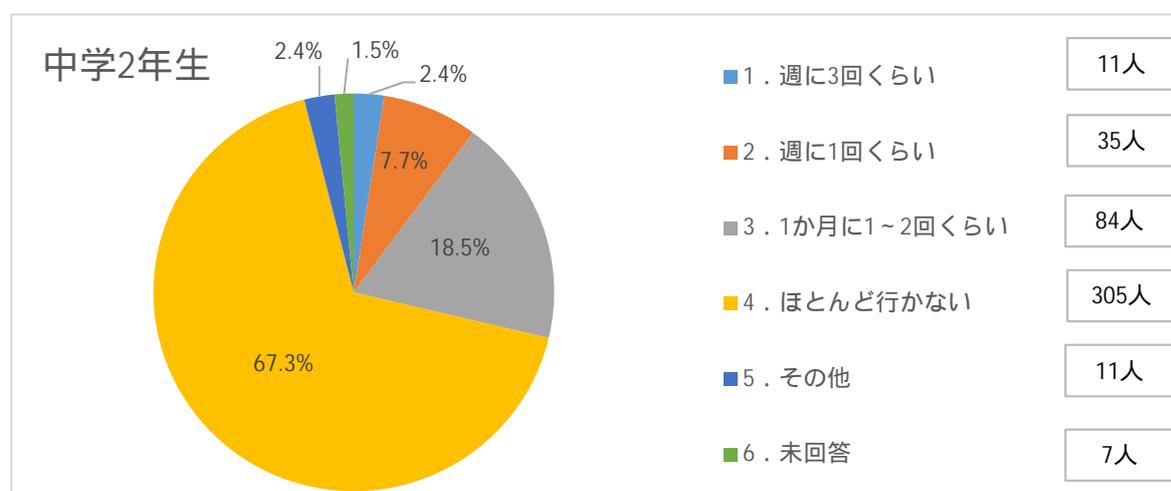
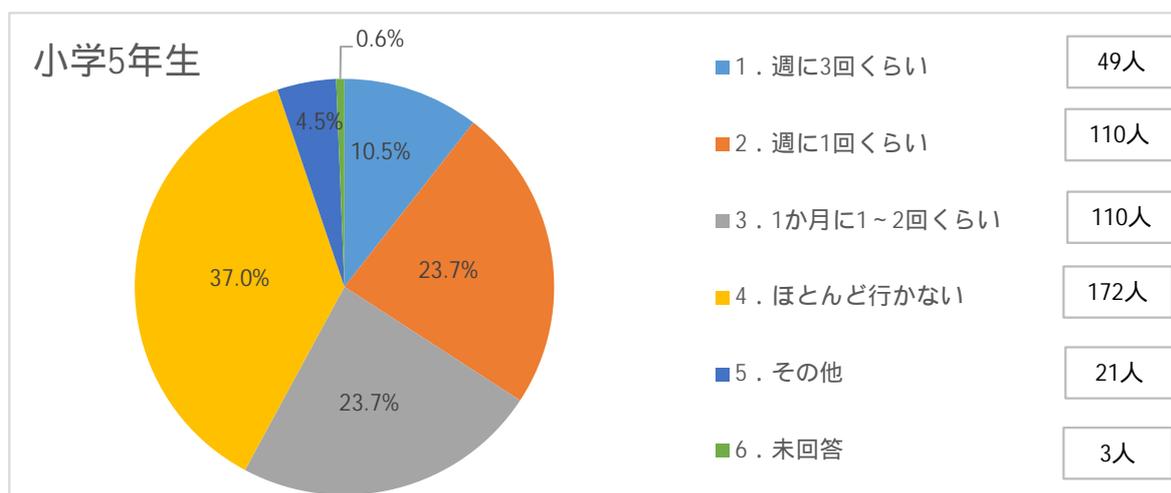
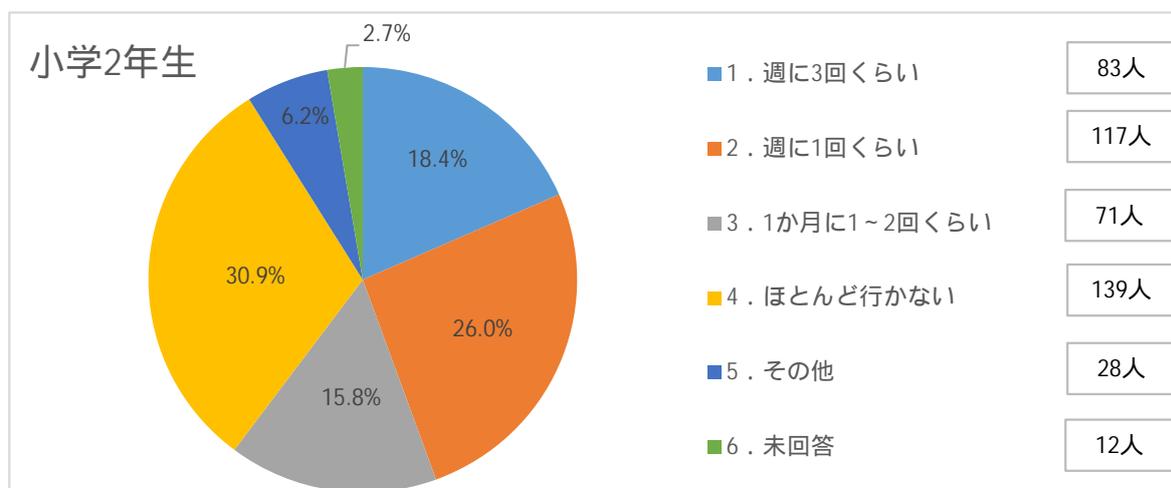
「ない」の回答数49人のうち



「ない」の回答数169人のうち

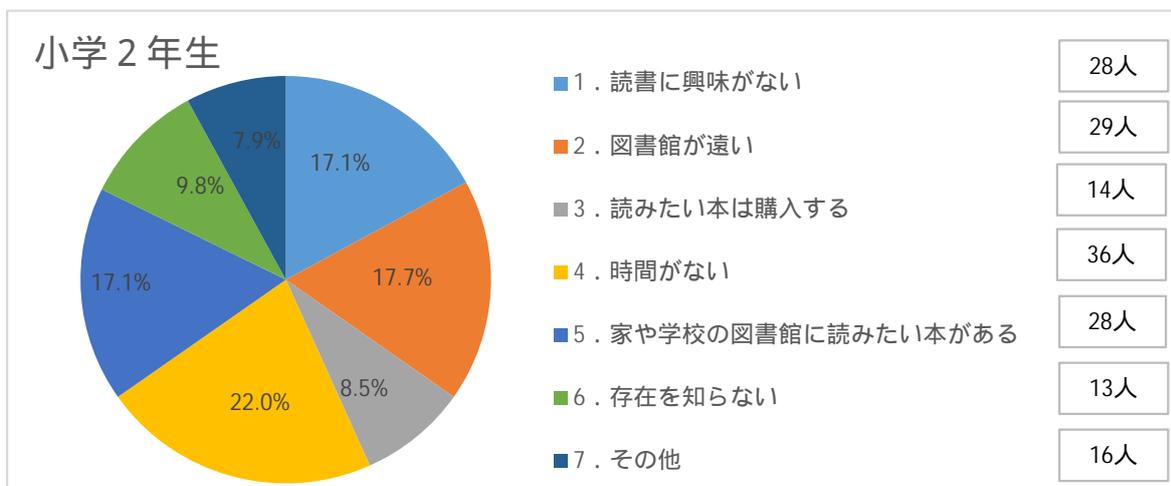


Q9 あなたはどのくらい図書館に行きますか？

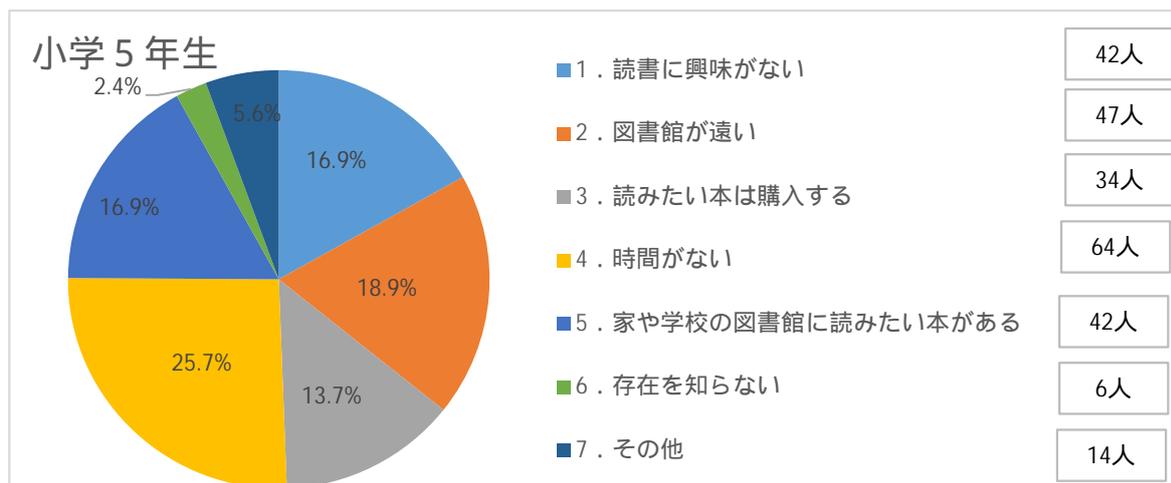


(Q9で「4.ほとんど行かない」と答えた人へ)
 Q10 図書館に行かない理由は何ですか?【複数回答】

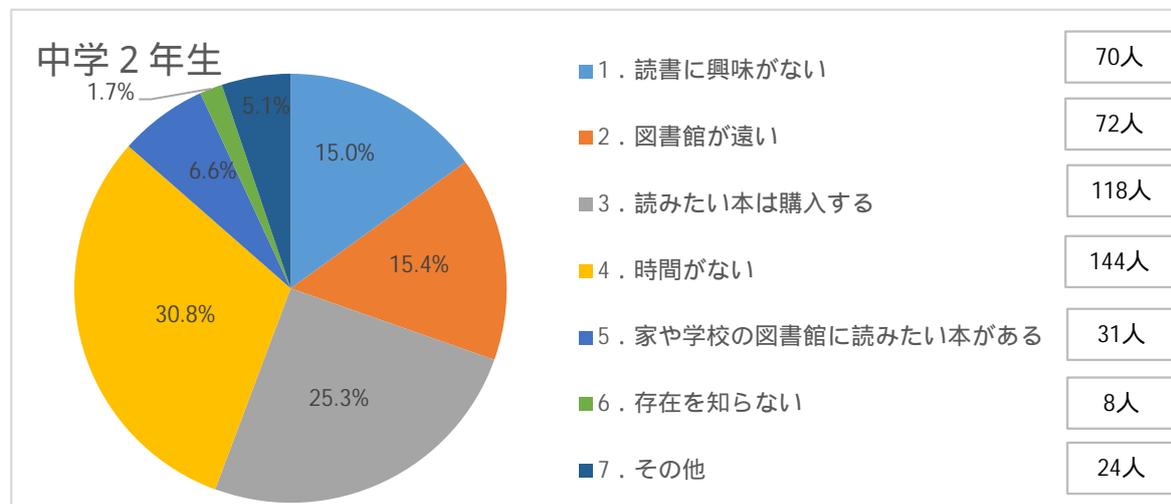
「ほとんど行かない」の回答数139人のうち



「ほとんど行かない」の回答数172人のうち



「ほとんど行かない」の回答数305人のうち



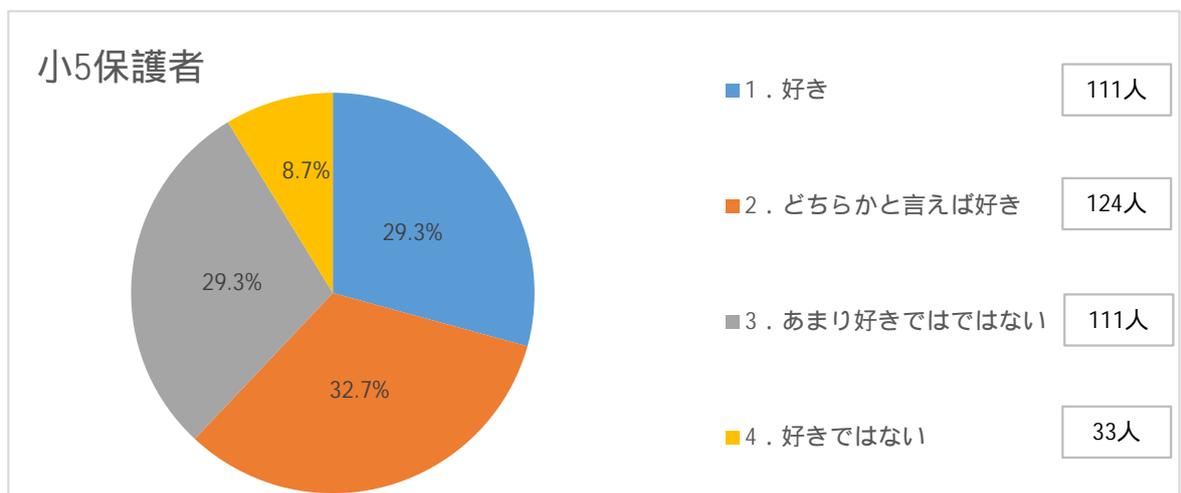
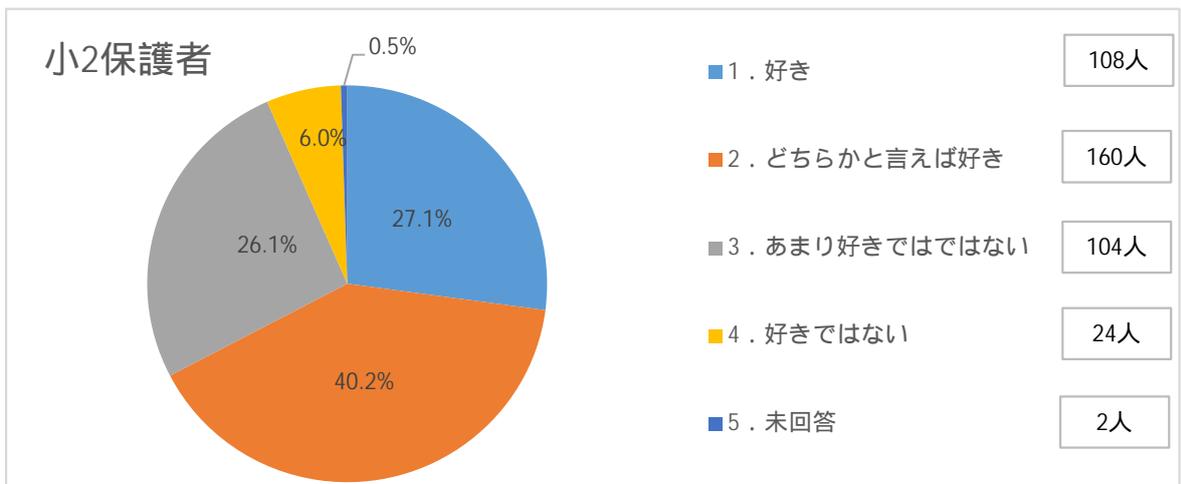
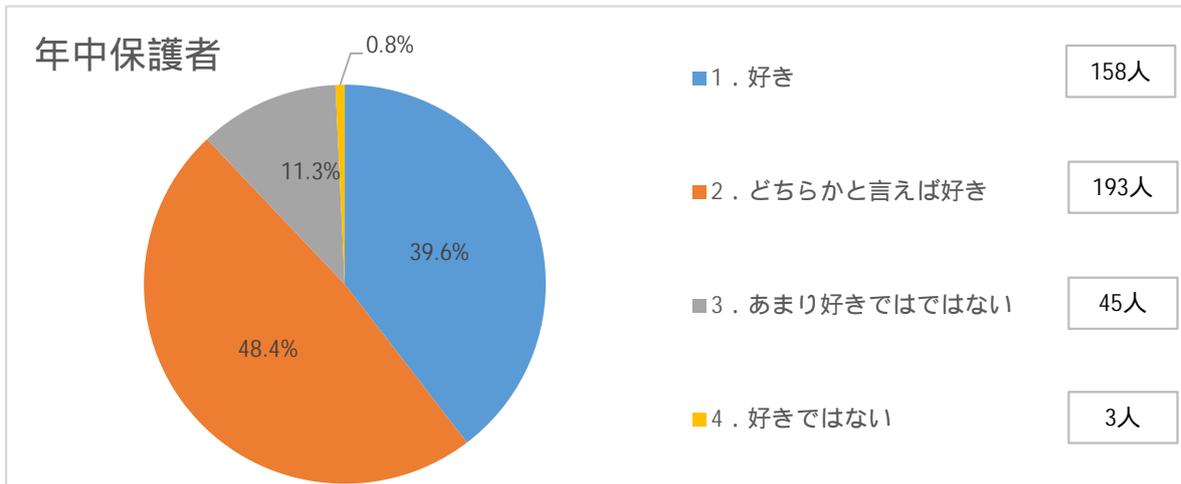
2. 保護者

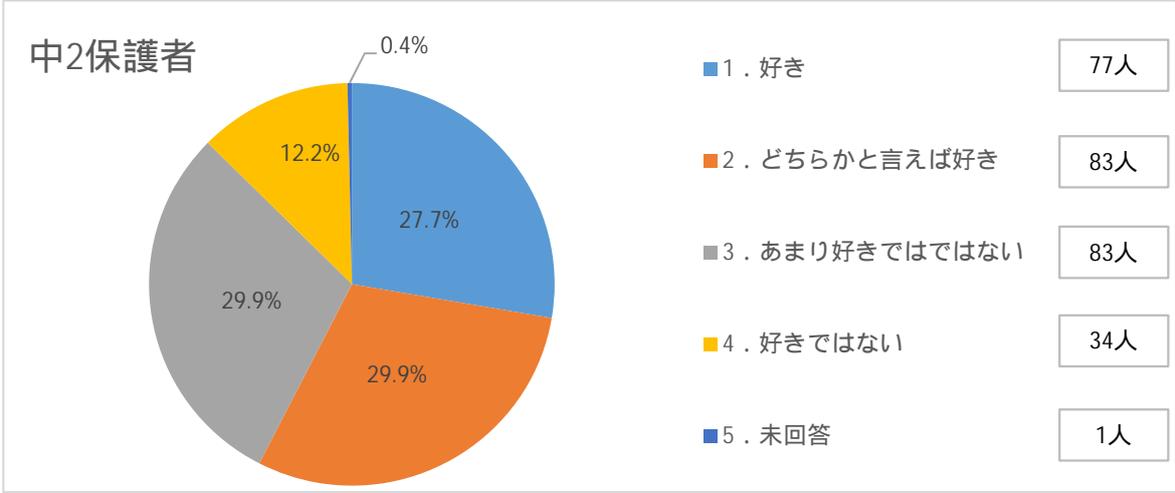
対象者 市内幼児教育施設 年中児の保護者

市内小学2年生・5年生の保護者

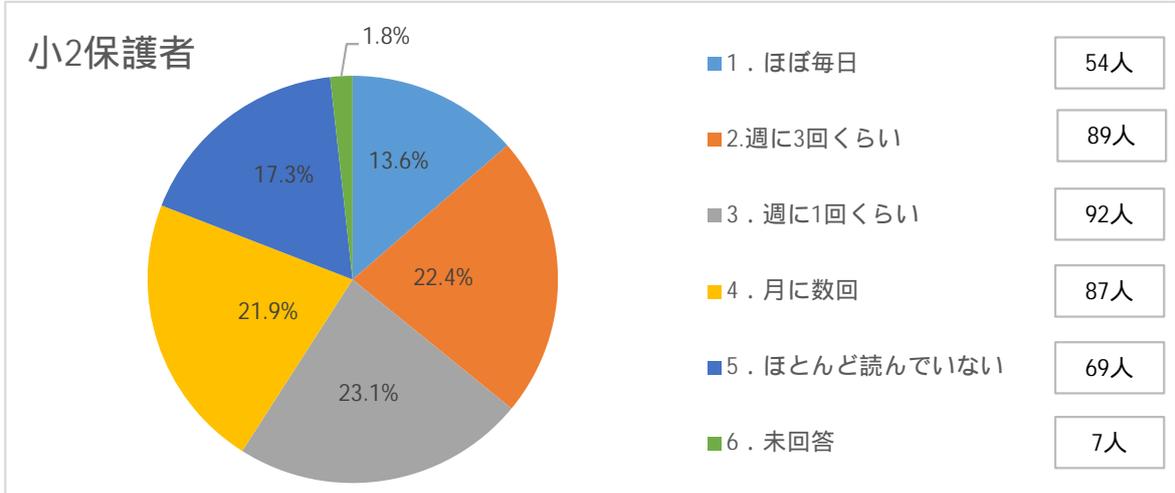
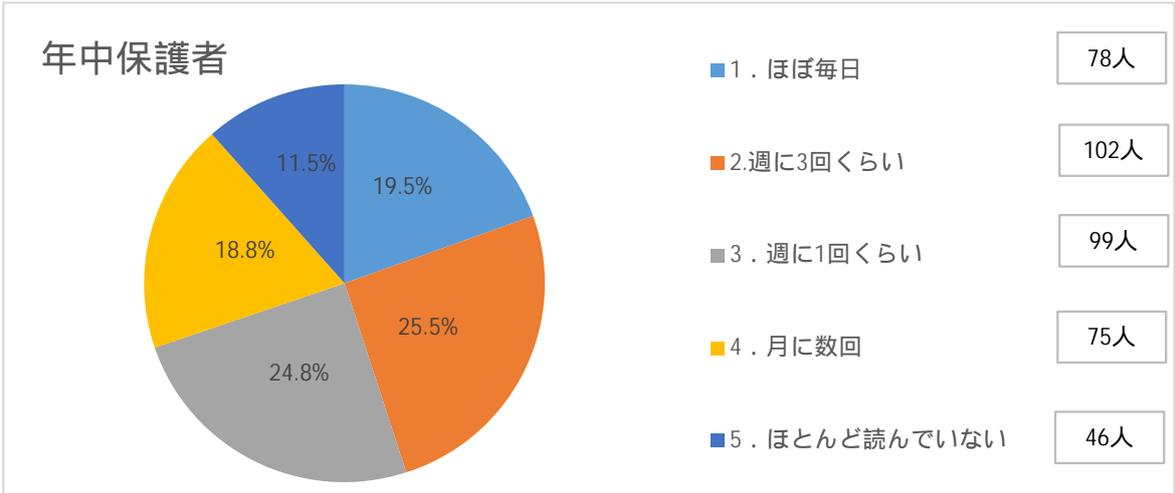
市内中学2年生の保護者

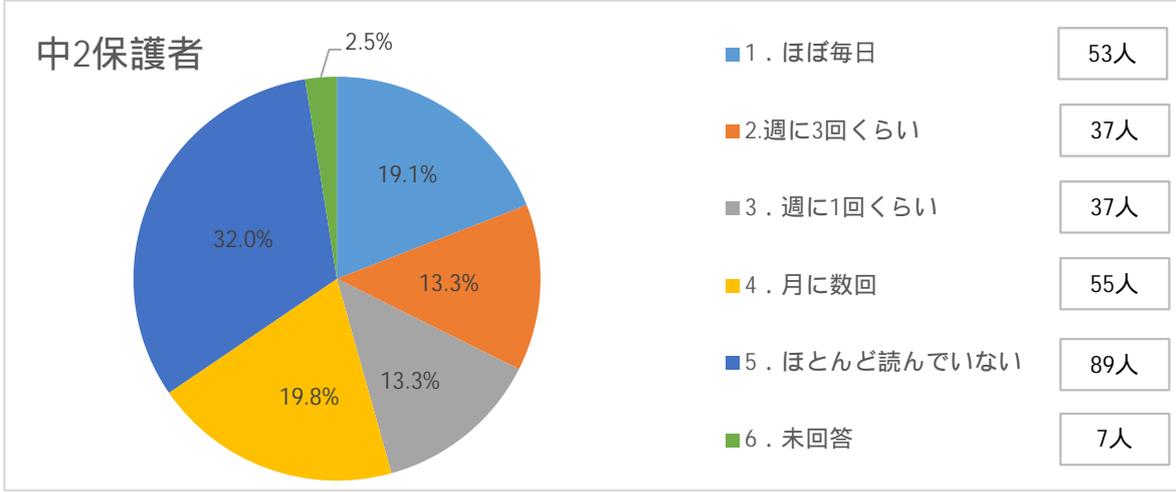
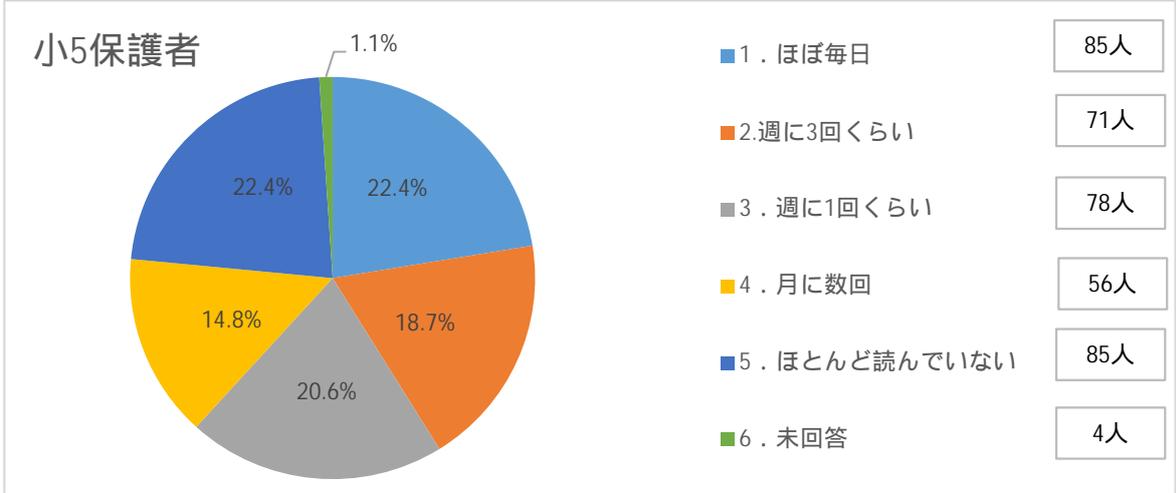
Q1 あなたのお子さんは本（読書）が好きだと思いますか？



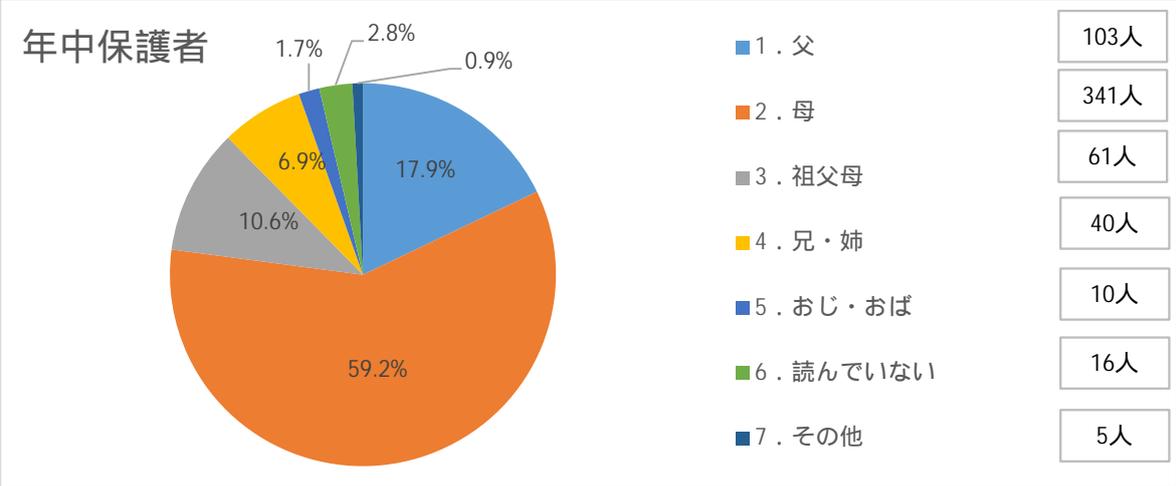


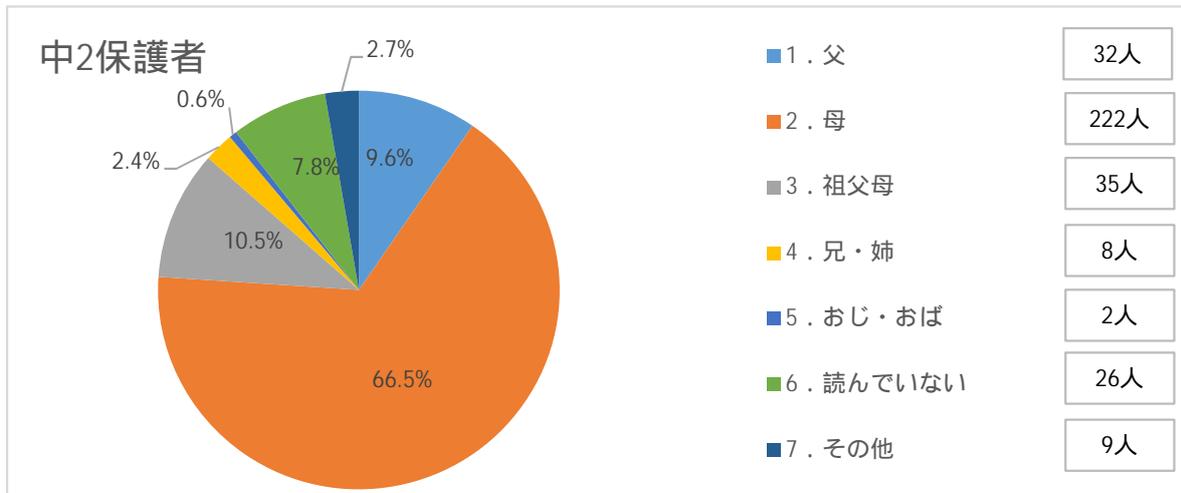
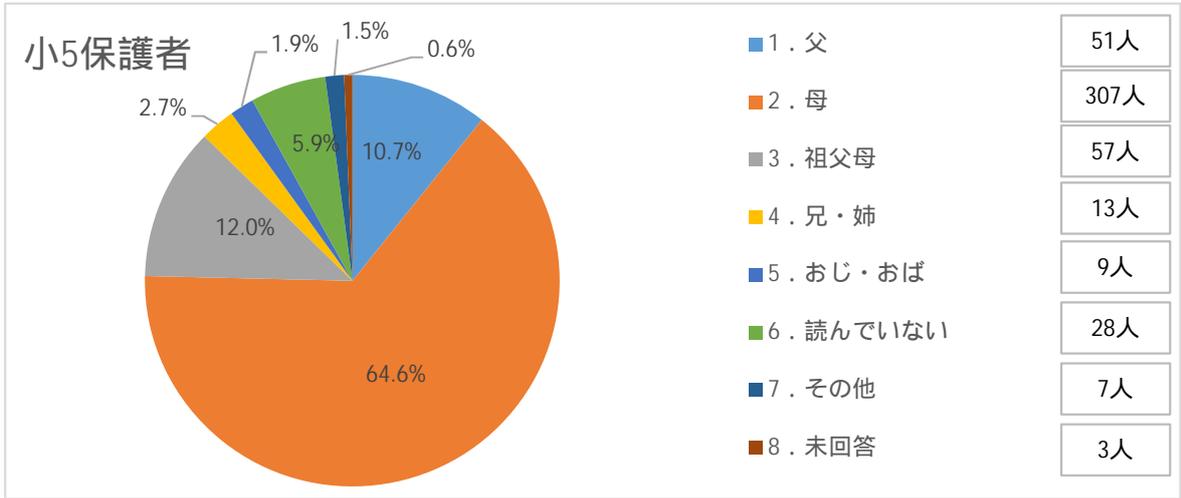
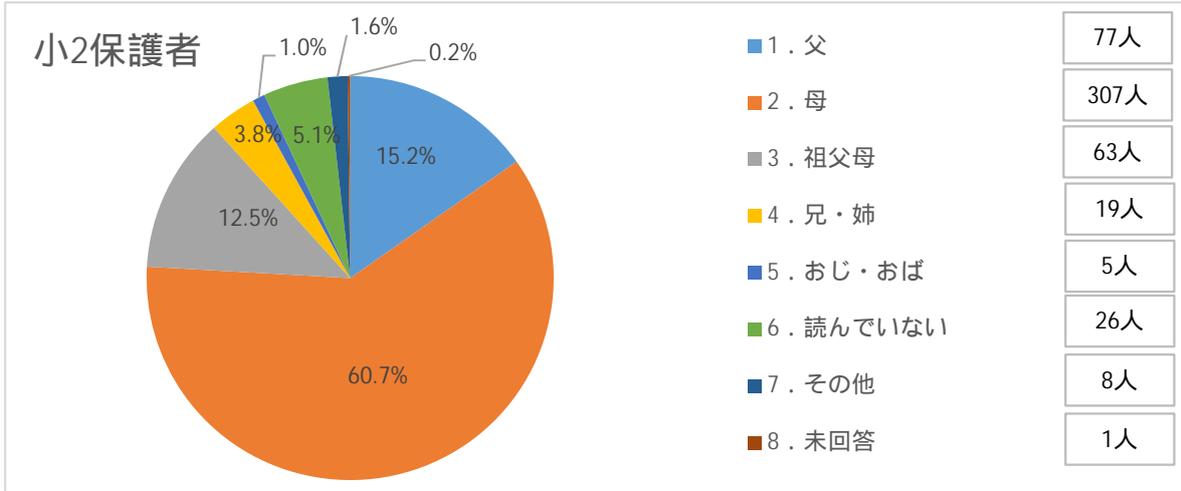
Q2 あなたのお子さんは、自分でどのくらい本を読んでいますか？



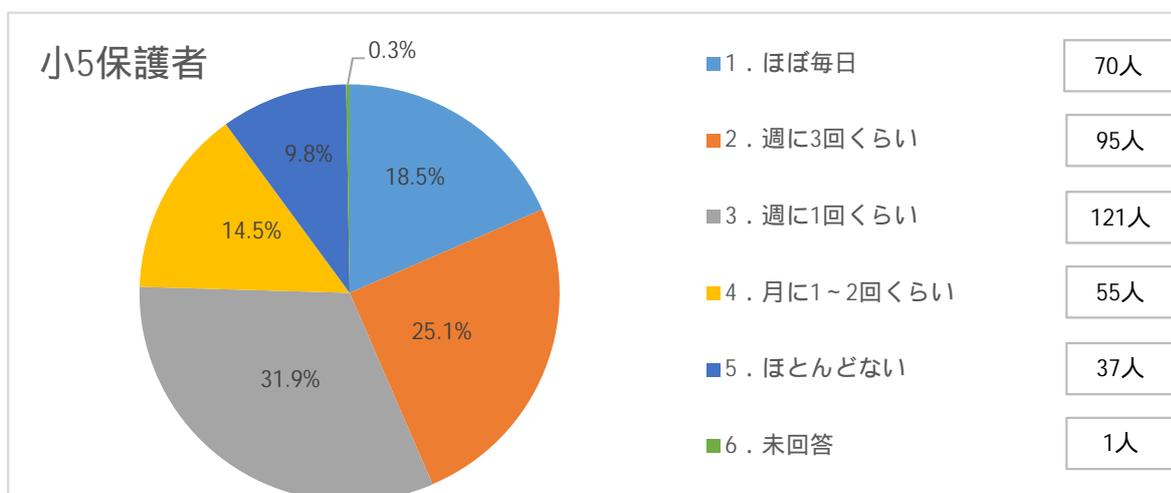
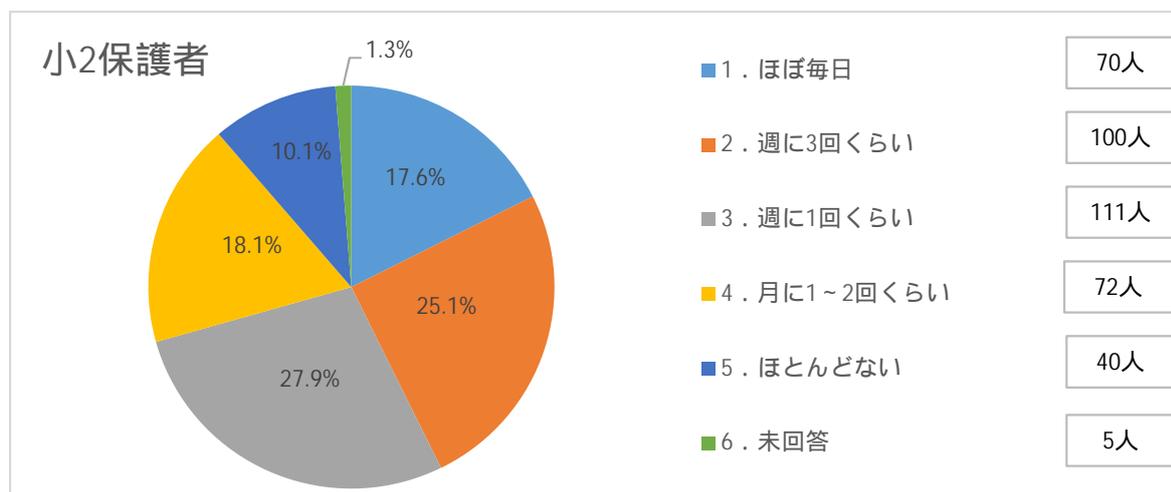
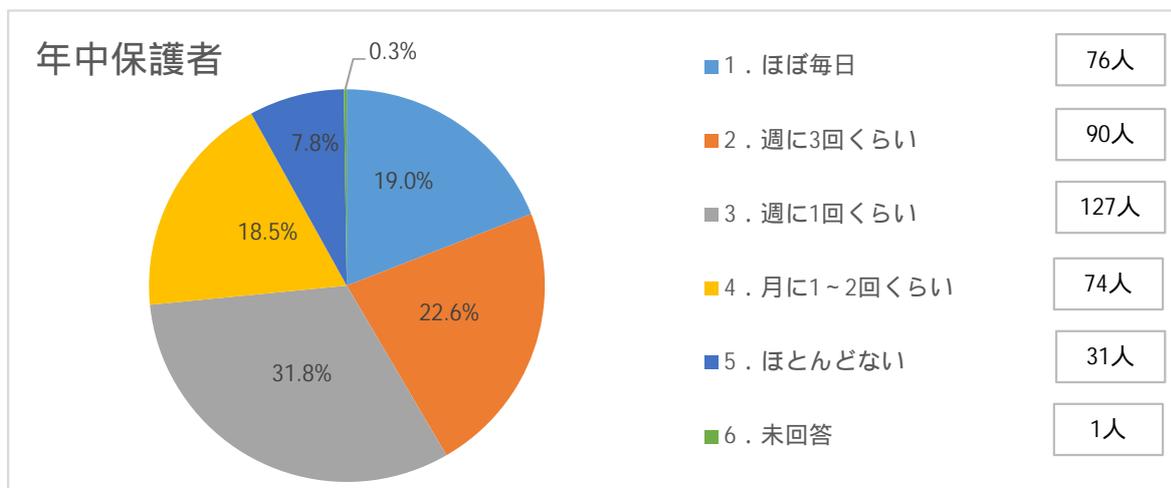


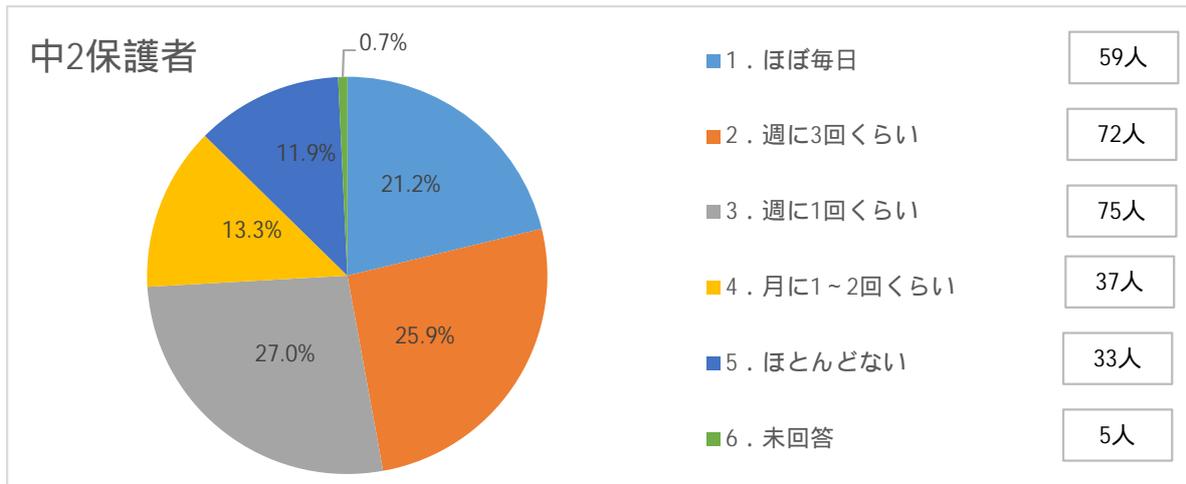
Q3 ご家庭では、あなたのお子さんに主にどなたが本を読んであげていましたか？
【複数回答】



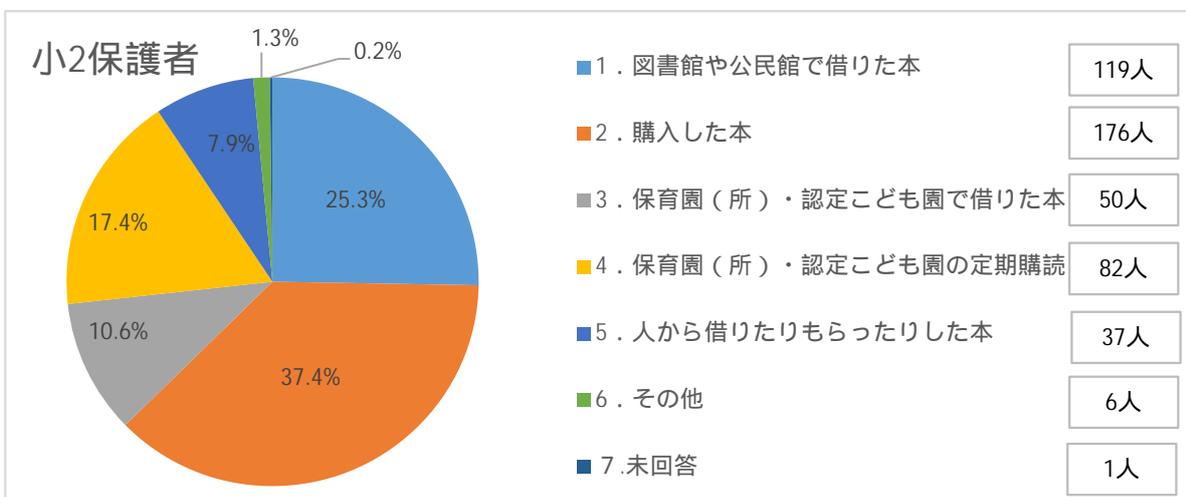
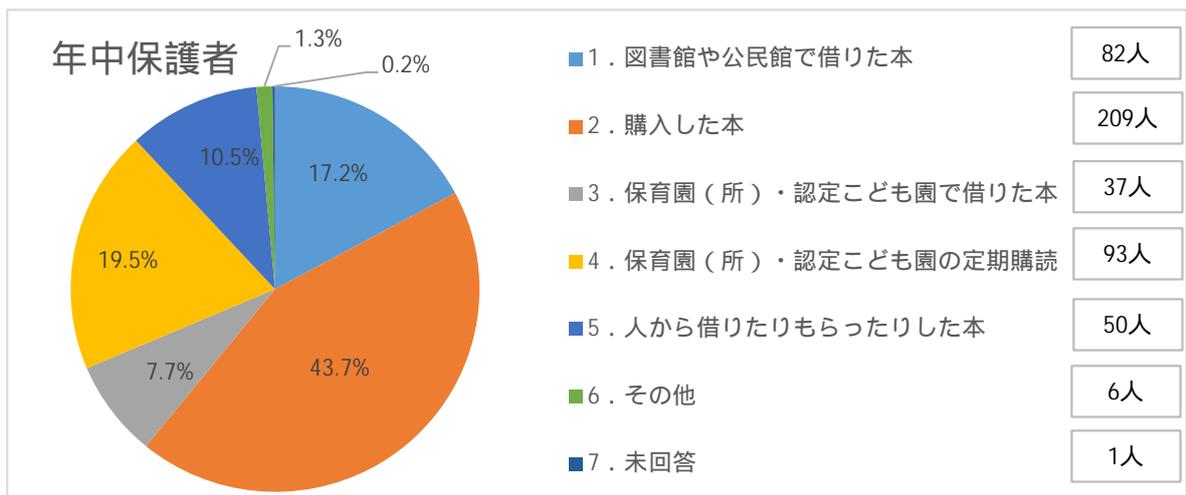


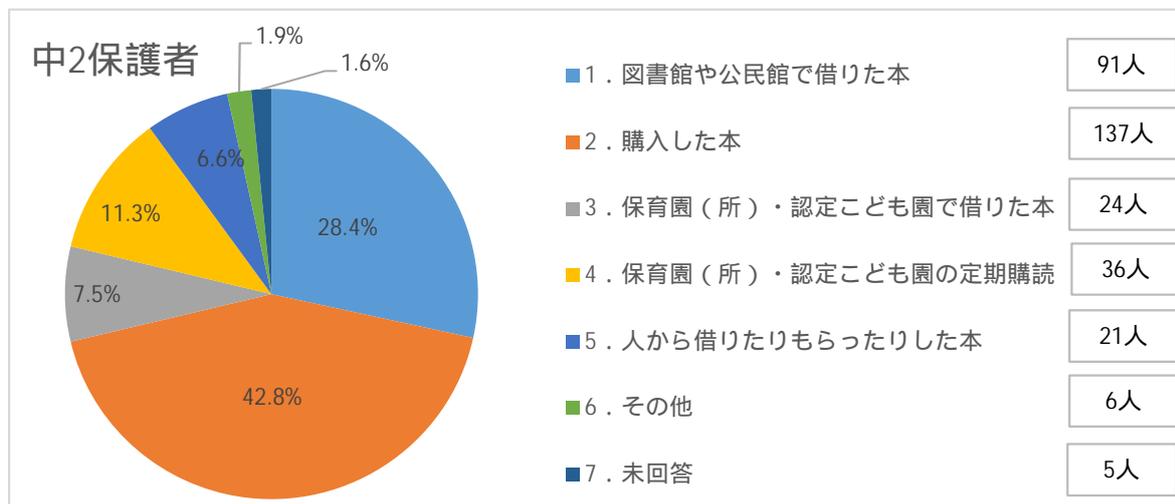
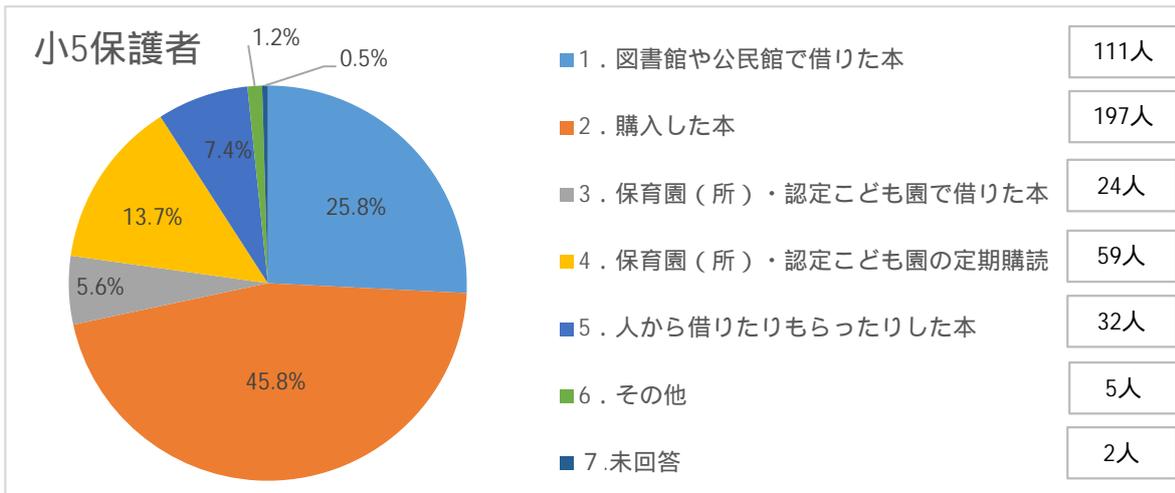
Q4 ご家庭では、（小学校入学前）どのくらい本を読んであげています（いました）か？



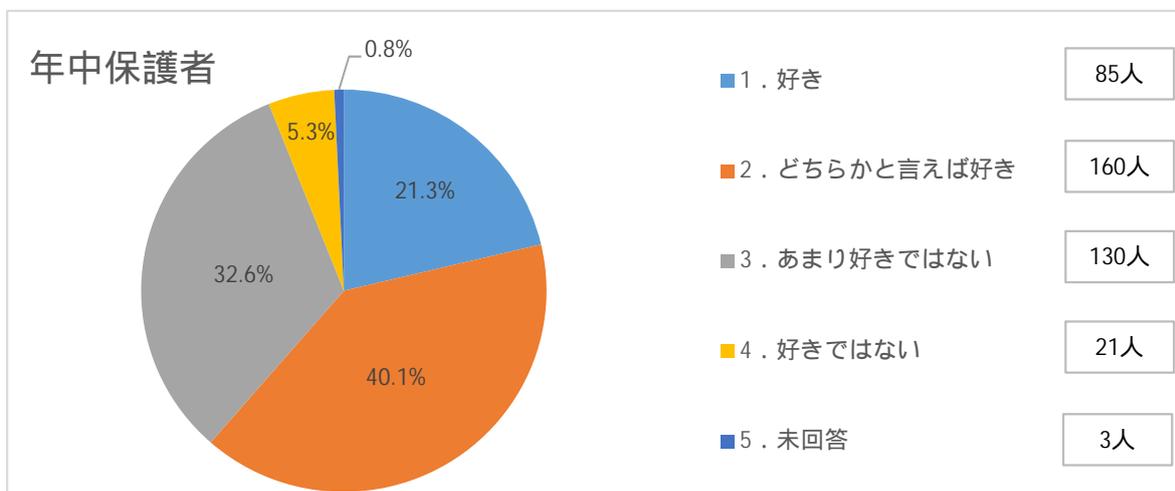


Q5 あなたのお子さんに読んであげた本はどのようにして入手されましたか？【複数回答】

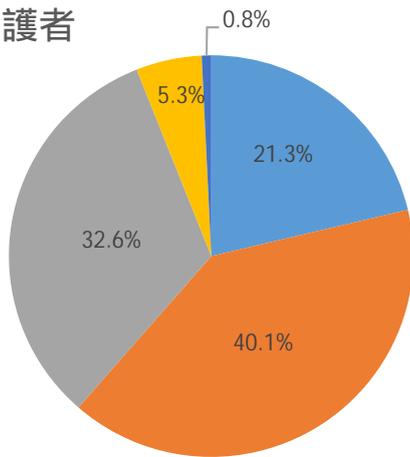




Q6 あなた自身読書が好きですか？

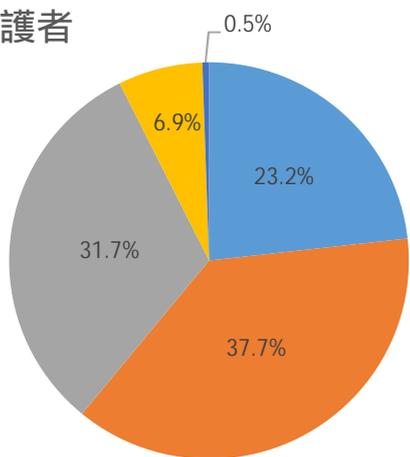


小2保護者



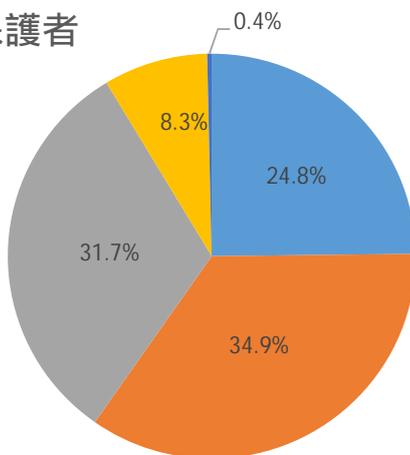
■ 1. 好き	74人
■ 2. どちらかと言えば好き	150人
■ 3. あまり好きではない	142人
■ 4. 好きではない	31人
■ 5. 未回答	1人

小5保護者



■ 1. 好き	88人
■ 2. どちらかと言えば好き	143人
■ 3. あまり好きではない	120人
■ 4. 好きではない	23人
■ 5. 未回答	2人

中2保護者

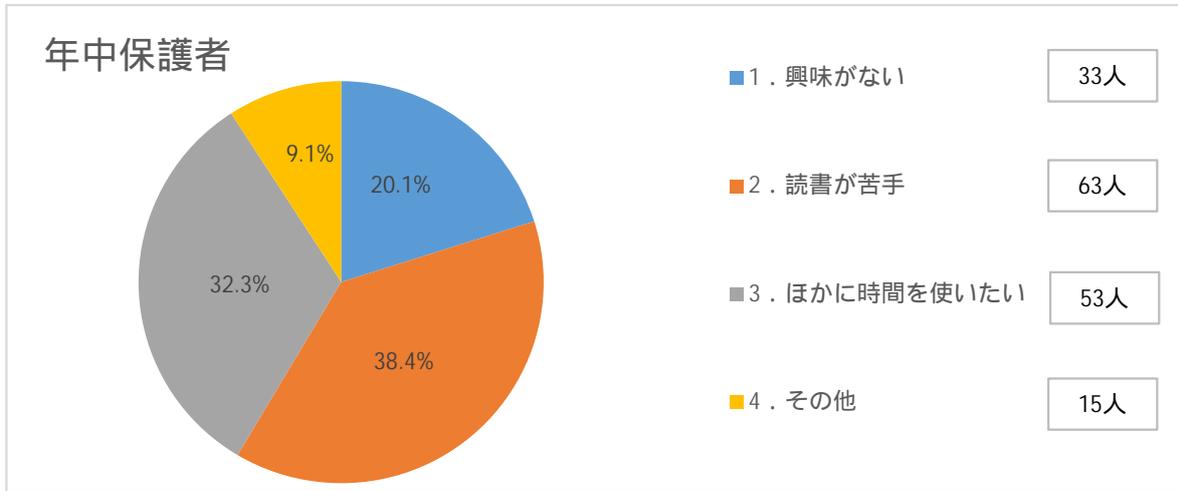


■ 1. 好き	69人
■ 2. どちらかと言えば好き	97人
■ 3. あまり好きではない	88人
■ 4. 好きではない	23人
■ 5. 未回答	1人

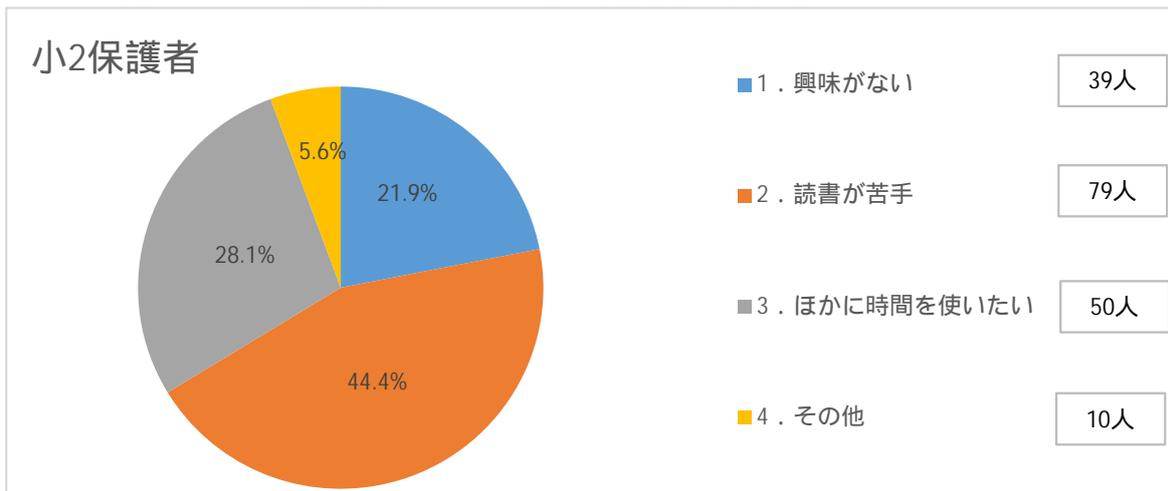
(Q6で「3.あまり好きではない」「4.好きではない」と答えた人へ)

Q7 その理由は何ですか?【複数回答】

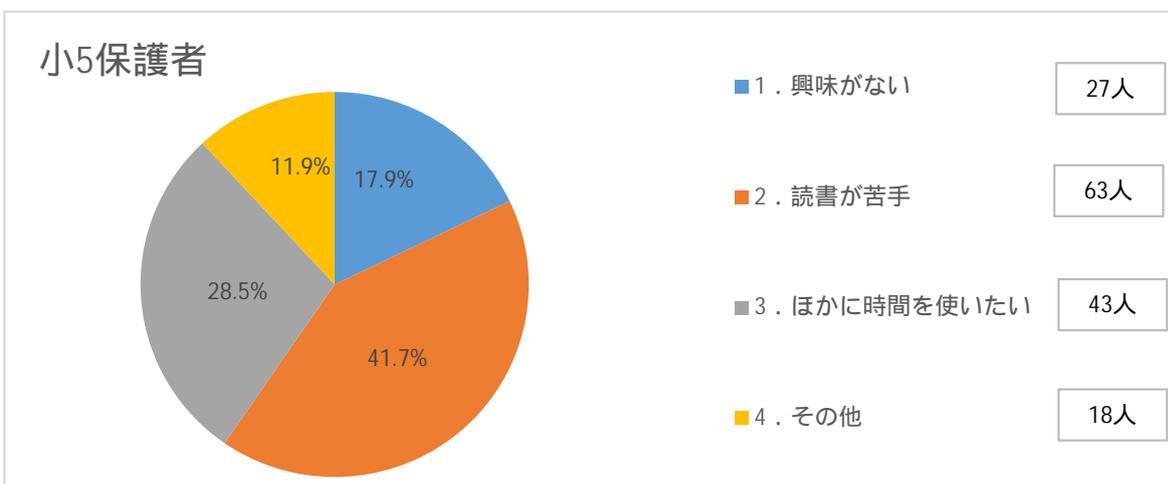
「あまり好きではない」「好きではない」の回答数151人のうち



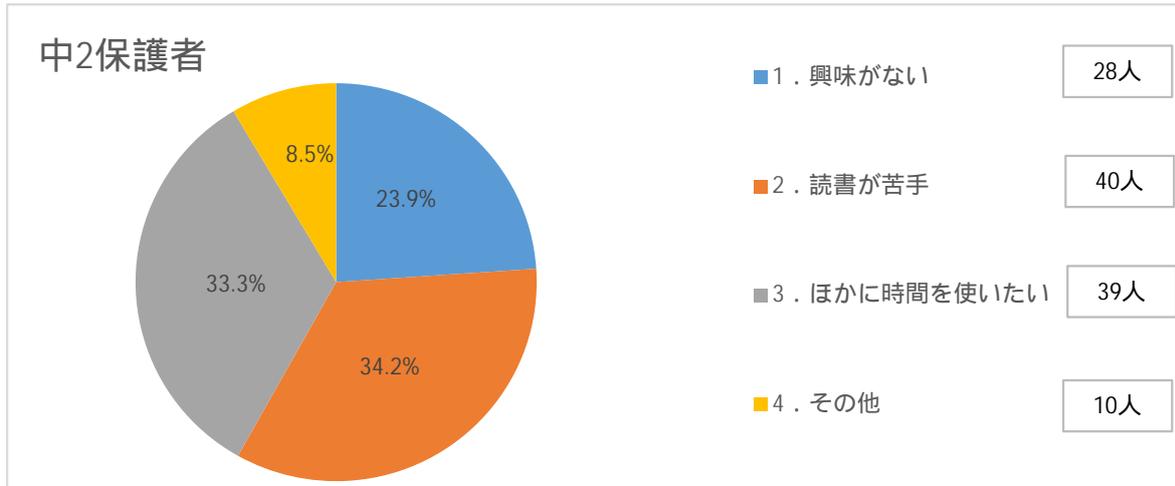
「あまり好きではない」「好きではない」の回答数173人のうち



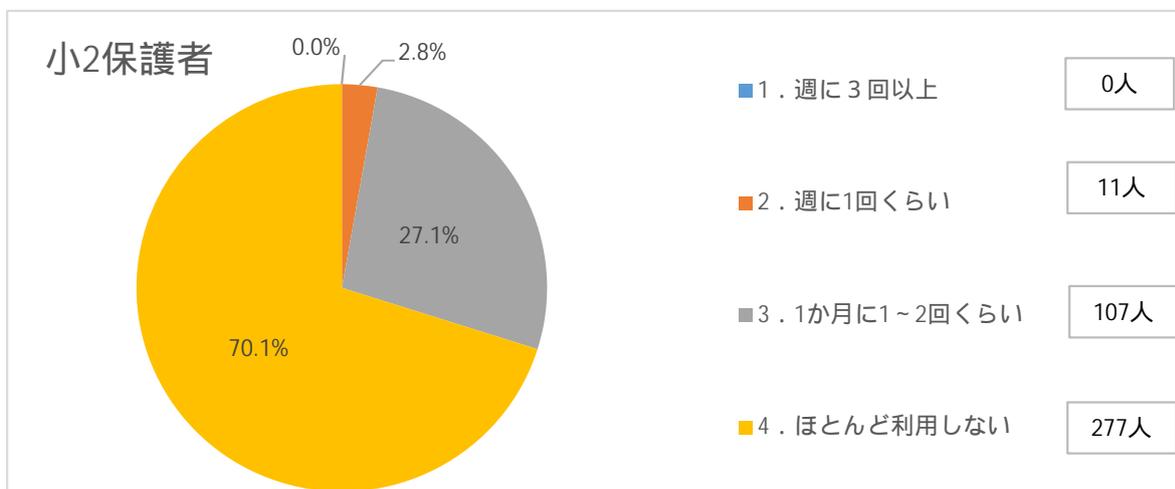
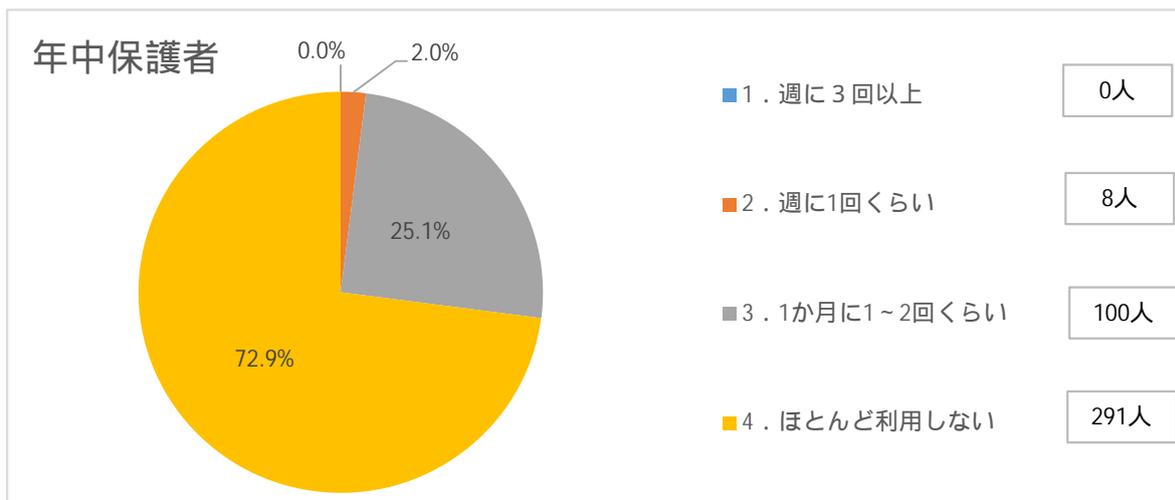
「あまり好きではない」「好きではない」の回答数146人のうち

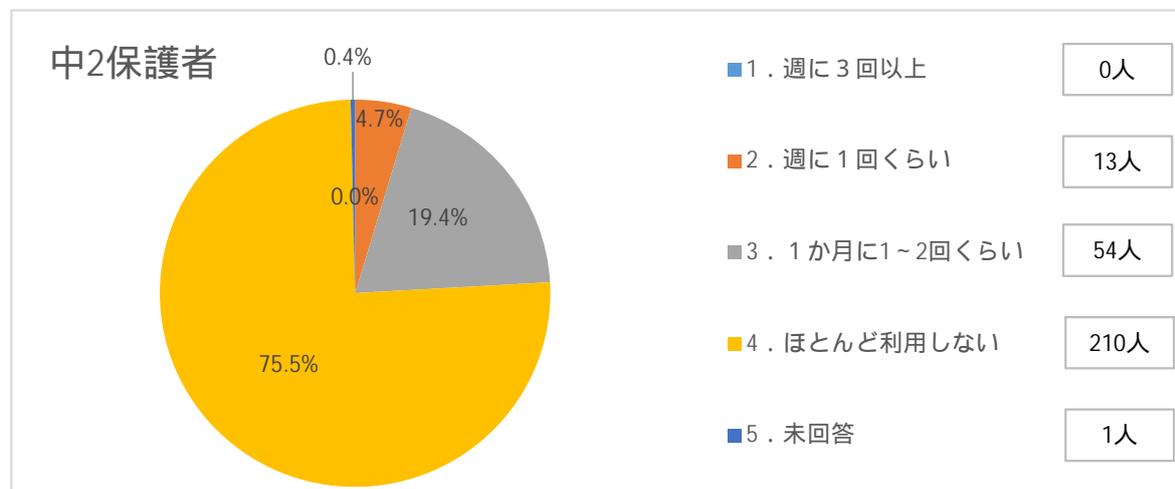
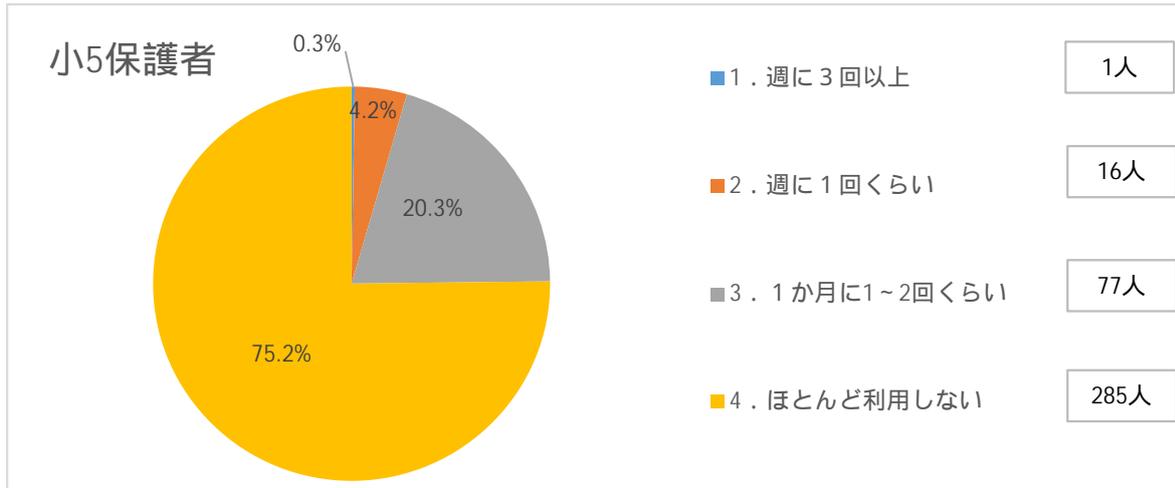


「あまり好きではない」「好きではない」の回答数111人のうち

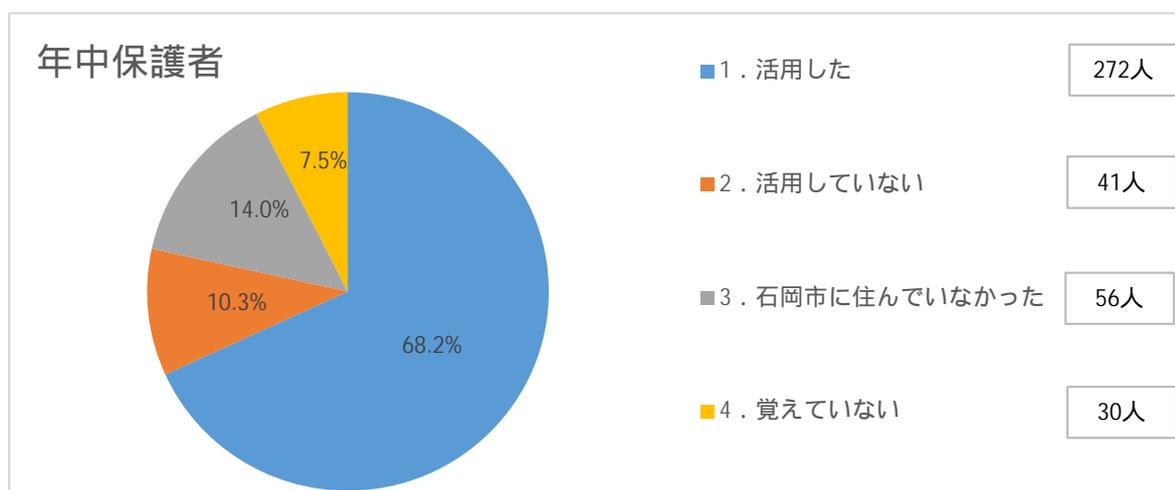


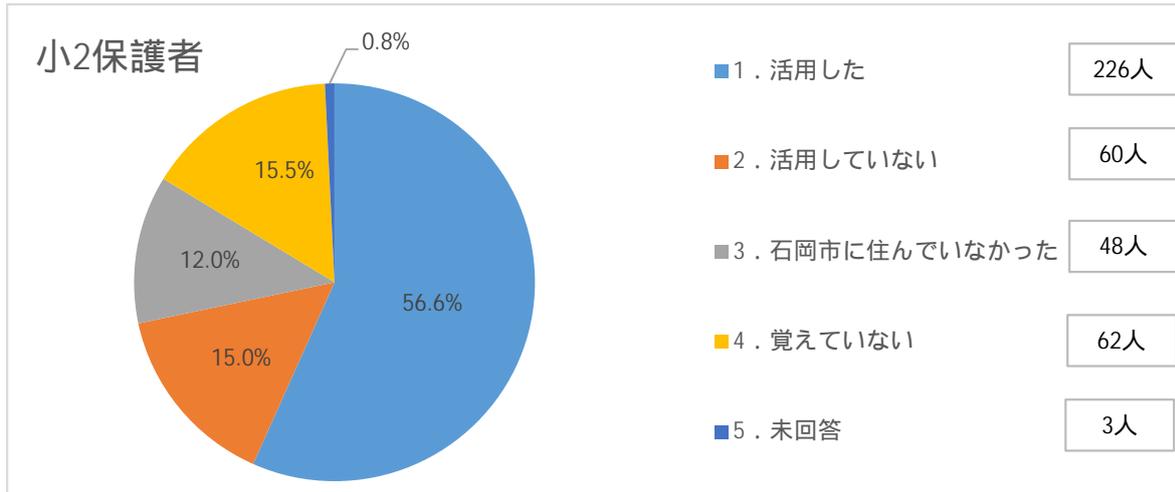
Q8 あなたは図書館をどのくらい利用されますか？



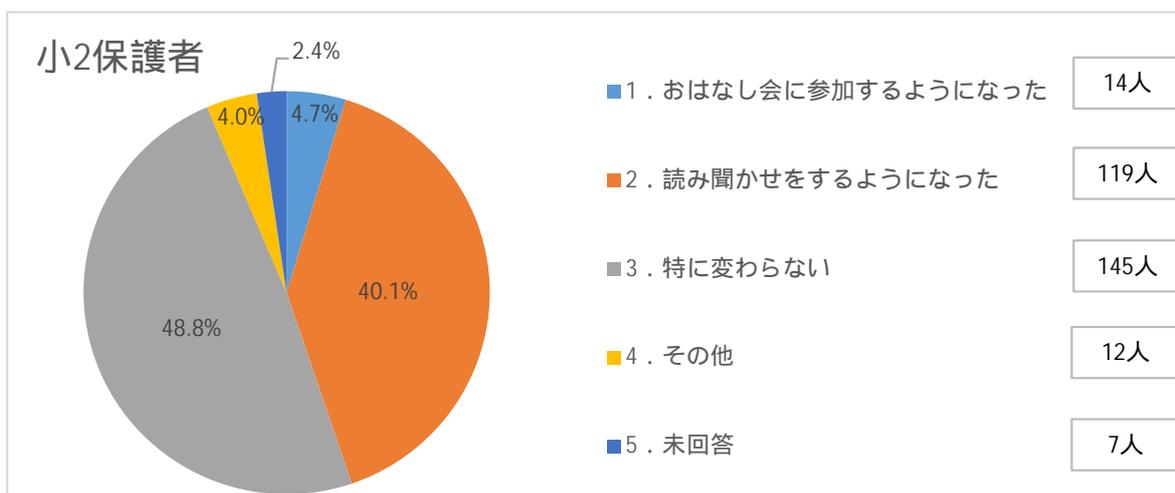
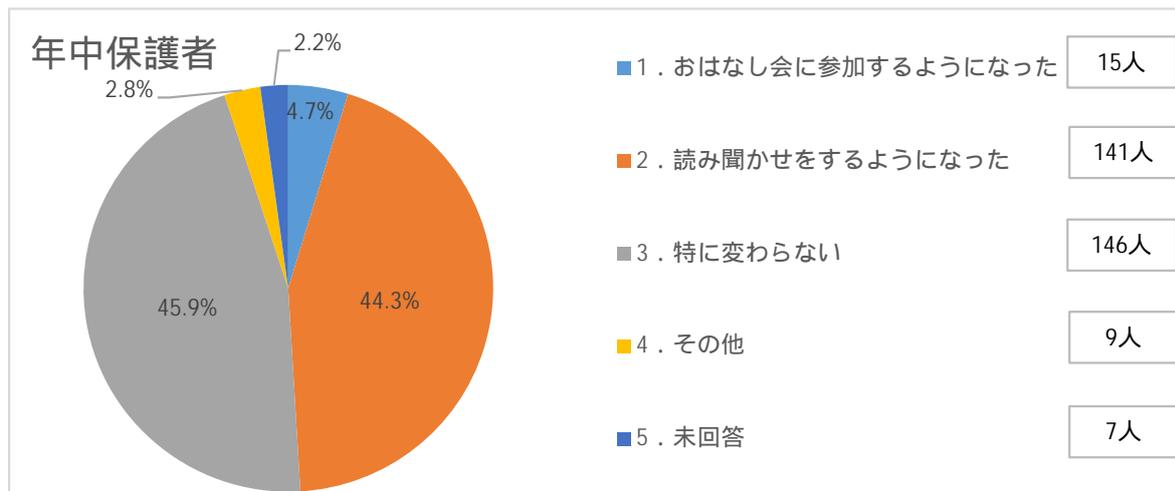


Q9 石岡市では平成25年からブックスタート事業（4ヶ月検診時）を行っていますが、その際にお配りした本は活用されましたか？
 年中・小2保護者のみ

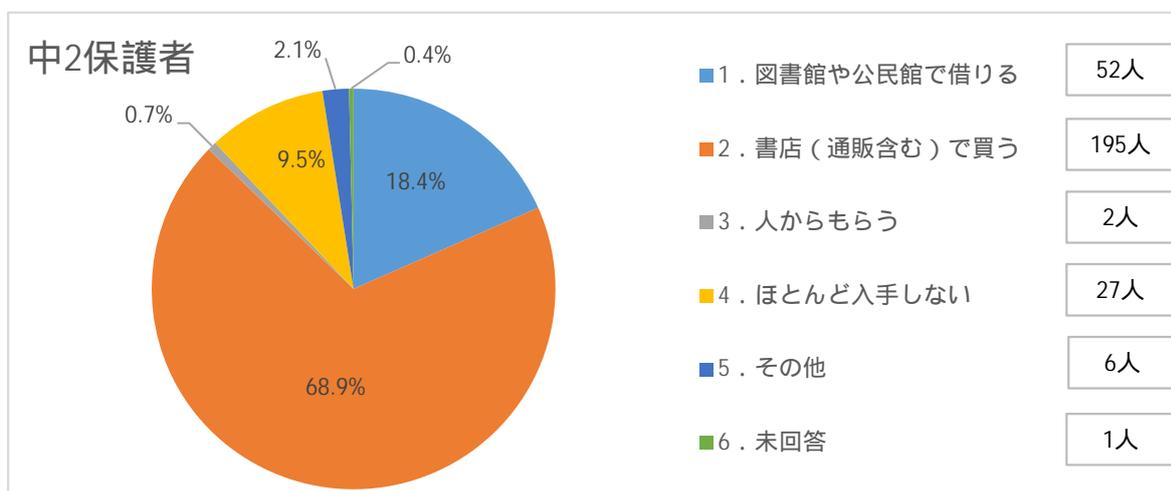
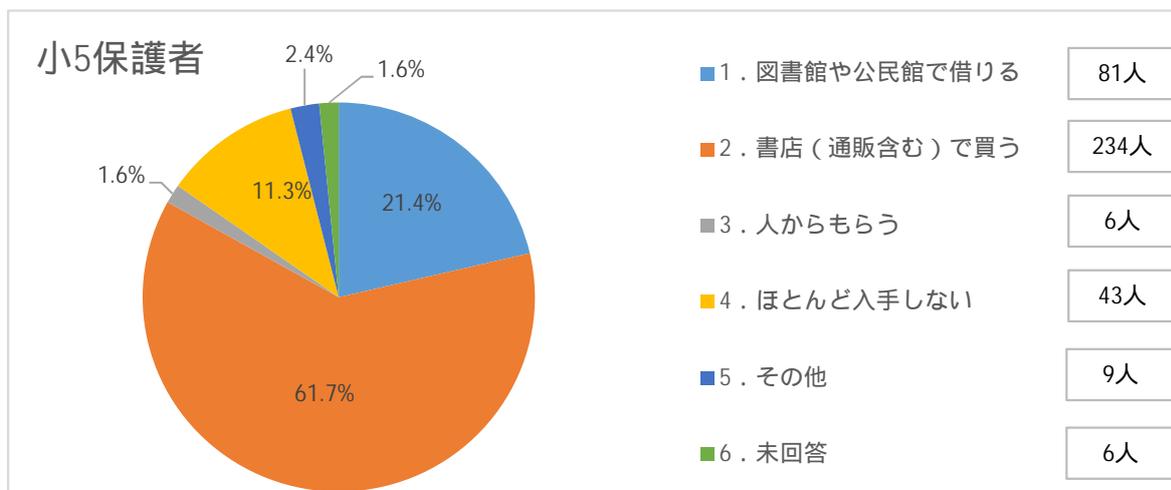




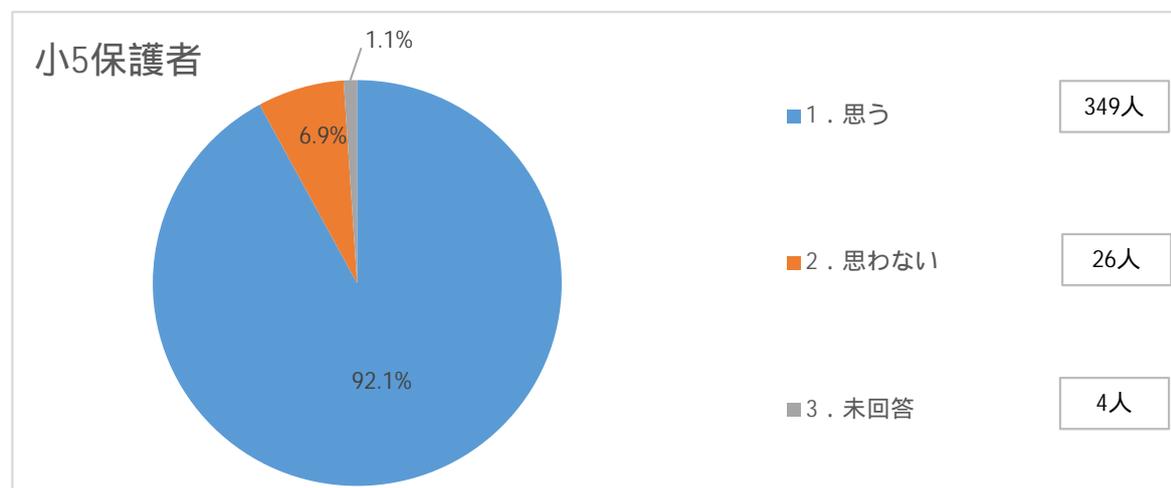
(Q9で「1. 活用した」「2. 活用していない」と答えた人へ)
 Q10 ブックスタート事業を受けて、読み聞かせに対する意識は変わりましたか？
 年中・小2保護者のみ

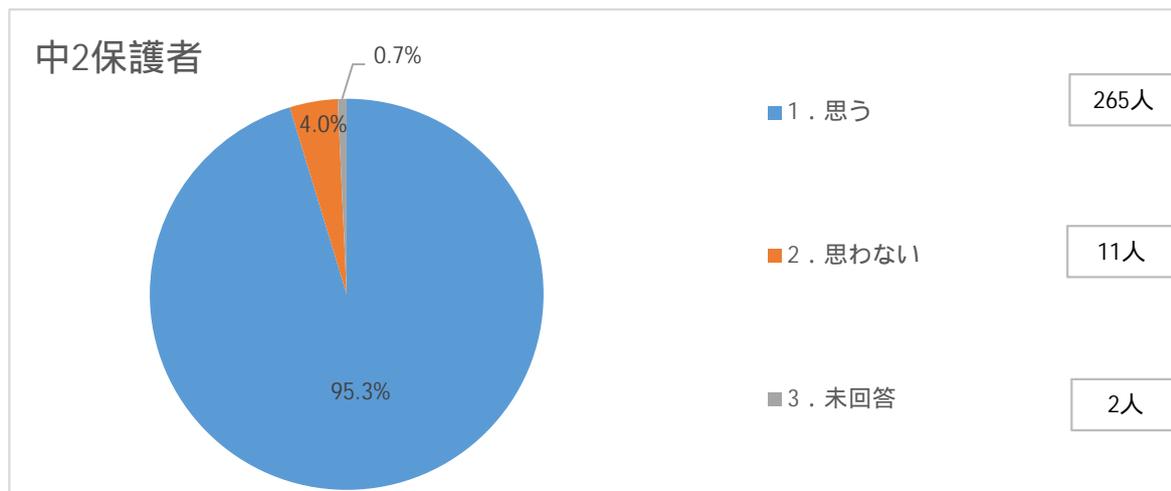


Q1 1 あなたはどのようにして本を入手されていますか？【複数回答】
小5・中2保護者のみ



Q1 2 あなたは、本を読むことが大切だと思いますか？
小5・中2保護者のみ





『本を読むことが大切だと思う理由』

- ・読解力、想像力、集中力、語彙力、思考力などの力が身につけられる。
- ・言葉や漢字の勉強になる。
- ・本の世界の中に入り、色々な世界を見ることが出来る。
- ・たくさんの知識を深めることができる。
- ・いろいろな考え方が出来るようになる。
- ・心が豊かになり、感性が育つ。

『本を読むことが大切だと思わない理由』

- ・本を読むより別な方法で知識を得たほうがわかりやすい。
- ・読む時間の確保が難しい。
- ・学習、知識、生活等で勉強になる動画もある。
- ・字を読むことは大切だが読書以外でも心を磨けることはたくさんある。

Q13 子どもの読書活動を推進するにあたって、ご意見・ご要望があれば教えてください。
【自由記載】

子ども読書活動推進計画策定への意見や各施設への要望など、たくさんのご意見を頂きました。全体的には、計画策定には肯定的意見が多く寄せられました。
ご意見の一部を抜粋して紹介します。

子どもの読書応援事業の読書カードのスタンプが2週間に1回しかもらえてないが、1週間に1回になると通いやすい。

子どもの読書応援事業の読書カードの図書カードとの交換が図書館でもできるといい。溜まったその場で交換ができると達成感が味わえる。

見たい本が図書館に置いていなかったり、借りられていることが多いので特に人気の絵本が置いてあると嬉しい。

公園、保育園、幼稚園、学校などに移動図書館が来てくれるといいなと思う。

本の宅配レンタル。

各学年にあわせておすすめの本を紹介するお手紙をいただけたら本を選ぶ参考になるので嬉しい。

引き続き、図書館でのイベントやおはなし会を続けてほしい。

ブックスタートで頂いた本は親子で楽しく読んだので今でも大切な1冊。

定期的に小学校や幼稚園・保育所等に出張して読み聞かせをしてもらいたい。その時に本の面白さを教えて欲しい。

図書館の本を出前貸出として学校で行ってほしい。

こども図書館を月に2回または週に1回19時まで延長してほしい。

子どもの読書応援事業は今後も続けてほしい。その図書カードで自分の好きな本が買えるので助かる。

子どもが小さいときにもっと読み聞かせをしてあげればよかった。

3. 市内小中学校用アンケート結果 (回答校数24)

Q1 読書のための時間(朝の読書・読書タイムなど)はありますか?	1. ある	23
	2. ない	1
Q2 (Q1で1.あると答えた学校へ) どのくらいの頻度で行っていますか?	1. 週5回	11
	2. 週4回	3
	3. 週3回	4
	4. 週2回	1
	5. 週1回	4
Q3 読書と連携した学習を行っていますか?	1. 行っている	24
	2. 行っていない	0
Q4 (Q3で1.行っていると答えた学校へ) どのような学習をしていますか? ○はいくつでも	1. 国語科での関連図書紹介	22
	2. 調べ学習の際に学校図書室を利用	20
	3. 読書感想文	8
	4. 並行読書	9
	5. その他	0
Q5 図書館の団体貸出を利用していますか?	1. 利用している	2
	2. 利用していない	21
	3. 団体貸出を知らない	1
Q6 学校の図書は充実していると思いますか?	1. している	18
	2. していない	6
Q7 学校図書室の利用促進を行っていますか?	1. 行っている	23
	2. 行っていない	0
Q8 (Q7で1.行っていると答えた学校へ) どのような利用促進を行っていますか? ○はいくつでも	1. 図書委員によるおすすめの本の紹介	16
	2. 図書室だより	9
	3. 読書集会などのイベント	8
	4. 読書賞・多読賞の表彰	15
	5. 図書委員児童による読み聞かせなど	10
	6. その他	9
Q9 読書活動のために、図書館にどのような支援を望みますか? ○はいくつでも	1. 図書・読書に関する研修	6
	2. 読み聞かせ・ブックトーク	16
	3. 図書館・学校図書室の担当者の情報交換の場づくり	6
	4. その他	2

<p>Q10 学校が行っている取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会によるイベント（クイズ、しおりをプレゼント） ・PTA、担任以外の教員、司書による読み聞かせ ・地区でのオンラインブックトーク集会 ・表彰学年ごとの読書量の掲示 ・年間50冊達成児童名掲示 ・学級の時間に本を借りる時間を作る ・秋の読書週間 ・読書くじ、ビンゴを行い図書室への来室増加
<p>Q11 子どもの読書活動を推進するにあたってのご意見・ご要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で自分に合った本を見つけられるような本の紹介や読み聞かせ、ブックトーク等ができればいいと思う。 ・図書館まで遠い地域の子どもにも本に触れられるような取り組みがあるとよい。 ・学校に移動図書館が休み時間来てもらえるとより読書の幅が広がる。 ・学年が上がるにつれ、読書冊数が伸び悩む。高学年でも読書に親しめる方策があれば教えて欲しい。

4. 幼児教育施設用アンケート結果 (回答園数18)

Q1 おはなし会(読み聞かせ)を実施していますか? (いつ・誰が・時間)	実施している(毎日、各クラス担任、12:15~12:30)	
	実施している(保育中、保育士、5~10分)	
	実施している(ほぼ毎日、担任、5~10分)	
	実施している(毎日、保育士、午睡前など)	
	実施している(毎日、保育士、保育中)	
	実施している(毎日、保育教諭、午睡前・ 場面の切り替え)	
	実施している(ほぼ毎日、担任の保育士、 5~10分おやつの後)	
	実施している(毎日、保育士、朝・午睡前)	
	実施している(毎日、担任、12:50~13:00)	
	実施している(毎日、保育士、朝の会・ 午睡前・帰りの会)	
	実施している(毎日、母・保育士、お昼寝前・就寝前)	
	実施している(毎日、保育士、5~10分×数回)	
	実施している(月2回月曜日、保育者、10時)	
	実施している(毎日、保育者、朝の会・帰りの会など)	
	実施している(毎日、各担任、 午睡前に約10分・保育中に5~10分)	
	実施している(毎日、保育者、10:15)	
実施している(降園前、15分くらい)		
実施している(毎日、先生、朝の会・ 帰りの会・午睡前)		
Q2 図書館をどのように利用していますか?	1. 団体貸出	10
	2. 個人で借りて読み聞かせをしている	8
	3. 利用していない	0
	4. その他	2
Q3 図書館の団体貸出を利用していますか?	1. 利用したことがある	14
	2. 利用したことがない	2
	3. 団体貸出を知らない	1
Q4 図書活動の活性化のために図書館にどのような支援を望みますか?	1. 図書・読書に関する研修	4
	2. 読み聞かせ・ブックトーク	14
	3. 図書館との情報交換の場づくり	5
	4. その他	1

Q 5 読み聞かせボランティアを活用していますか？	1．毎月活用している	0
	2．3～4か月に1回活用している	0
	3．年に1回活用している	12
	4．活用していない	4
	5．ボランティア活動を知らない	1
	6．その他	1
Q 6 園児に絵本・紙芝居・図書を紹介していますか？	1．紹介している	13
	2．紹介していない	4
	3．その他	0
Q 7 園児が本を読む時間がありますか？ (読書タイムなど)	1．ある	17
	2．ない	1
Q 8 (Q7で1．あると答えた施設へ) どのくらいの頻度で行っていますか？	1．週5回	12
	2．週4回	2
	3．週3回	1
	4．週2回	0
	5．週1回	1
Q 9 保護者に対して、読み聞かせ等の大切さや意義を伝える活動をしていますか？	1．活動している	14
	2．活動していない	4
Q 1 0 (Q9で1．活動していると答えた施設へ) どのような活動をしていますか？	1．保護者へ絵本の貸出	1
	2．おすすめの本の紹介	4
	3．月刊誌などの定期購入	12
	4．読書の日などのポスター掲示	4
	5．読み聞かせ等に関する講演会開催	1
	6．その他	2
Q 1 1 子どもの読書活動を推進するにあたってのご意見・ご要望	<p>・読書の良いところを色々教えて欲しい。</p> <p>・イベントを通して本に触れ合う機会を設けていただけてありがたい。さらに興味を持ったり、自分で選ぶ楽しさを味わえていると思う。</p> <p>・年長は1日15分程の読書タイムを設けている。また、他の学年も好きな本を自由に手に取り見ている。たくさん本があると選ぶ楽しさも加わって楽しそうに読んでいる。</p>	

石岡市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)第9条第2項の規定に基づき、「石岡市子ども読書活動推進計画」(以下「推進計画」という。)を策定するため、石岡市子ども読書活動推進計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 推進計画の策定に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、推進計画の策定に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 策定委員会は、12人以内の委員をもって構成する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから石岡市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が依頼する。

- (1) 教育委員会教育部長
- (2) 教育委員会教育総務課長
- (3) 教育委員会生涯学習課長
- (4) 教育委員会指導室長
- (5) 保健福祉部こども福祉課長
- (6) 中央図書館長
- (7) 市内小・中学校の代表者
- (8) 市内保育所または幼稚園の代表者
- (9) 読み聞かせボランティア代表
- (10) 学識経験者

(任期)

第4条 委員の任期は、推進計画の策定の日までとする。委員が欠けた場合における補欠の委員の任期も同様とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教育部長をもってこれに充てる。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 委員会に副委員長を置き、生涯学習課長をもってこれに充てる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長がこれを招集し、その議長となる。

2 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明若しくは意見を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会生涯学習課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。